

No. 5

6710  
14



No. 10

CG3-476-H1  
\*1200600091277\*

獨逸船員法及附隨法規

Kodak Gray Scale

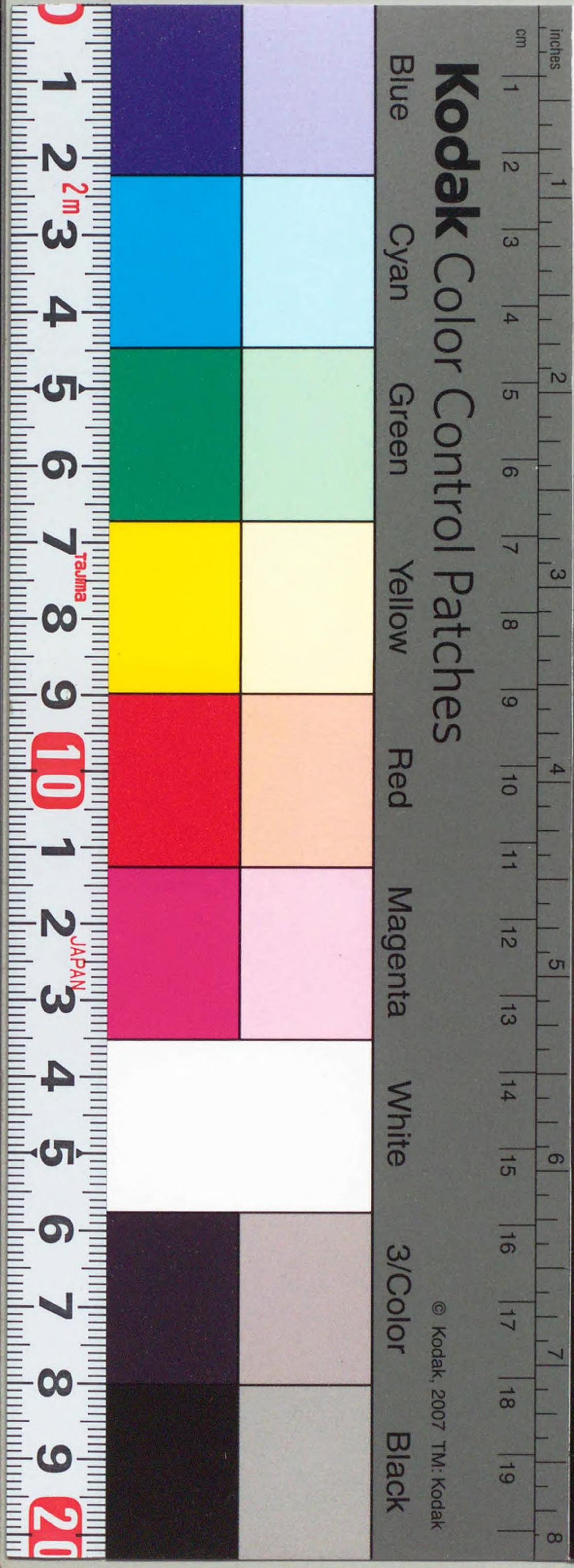
- A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

- Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black





CG3  
476  
H1



I 種  
W



\*1200600091277\*



# 目次

一、獨逸船員法……………	一頁
一、海員船舶勤務適否審査ニ關スル布告……………	五九
一、商船船員ノ常用室、洗濯室、浴室及便所ニ關スル布告……………	六三
一、海員送還ニ關スル商船ノ義務ニ關スル法律……………	七一
一、一千九百十年六月二日ノ職業媒介人法……………	七五
一、船員及準船員ノ兵役關係及其ノ海員トシテノ公認ニ關スル規則類纂……………	八三
一、大航海ノ食物表……………	一〇三
一、海上船舶ノ食糧及船員常用室ニ關スル命令……………	一〇七
一、商船内ノ衛生ニ關スル命令……………	一一一



獨逸船員法

(一九〇四年三月十二日修正)

第一章 總則

第一條

本法ノ規定ハ帝國々旗ヲ掲揚スル權利ヲ有スル凡テノ商船ニ之ヲ適用ス(一八九九年六月二十二

日法律第一條、一八九九年帝國法律公報三一九頁、一九〇一年帝國法律公報一八四頁)

契約ニ依リ本法ノ規定ニ異ナル定メヲ爲スコトヲ得ス但シ明文ヲ以テ特契ヲ許シタルトキハ此ノ限ニ在

ラス

本法ノ規定カ帝國國旗ヲ掲揚スル權利ヲ有スル内水航行船舶ニ適用セラレハ範圍ハ聯邦參議院ノ協贊ヲ

經テ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得(一八九九年六月二十二日法律第二十六條)

註一、小形船ニ關シ一三四條參照

註二、一九〇三年六月十六日ノ聯邦參議院ノ布告ニ依リ三百立方突以下ノ總容積ヲ有スル沿海航行船、快遊船及ヒ三百立方

突以下ノ容積ヲ有スル海洋漁船ニ對シテハ本條ノ規定ヲ適用セス、第十二條第二項、第三十五條第一項、第三十六條第一項、

第四十四條、第四十九條及第百三十三條ノ註參照

第二條 本法ニ於テ船長ト稱スルハ船舶ノ指揮者ヲ謂フ、指揮者欠ケタル場合若ハ故障アル場合ニハ其代

理人ヲ謂フ



本法ニ於テ船舶職員ト稱スルハ船舶ヲ指揮スルニ付船長ヲ輔佐スル任務ヲ有シ其ノ職務ノ執行ニ付國家ノ授與シタル資格證明書ヲ受有スルコトヲ要スル者ヲ謂フ、船醫、司厨、會計方ハ之ヲ船舶職員ト看做ス(註)本法ニ於テ海員ト稱スルハ海員雇入契約ノ公認ヲ受ケタルト否トヲ問ハス(第十三條)航海中船舶所有者ノ計算ニ於テ船舶内ノ凡テノ他ノ職務ニ服スル任務ヲ有スル者ヲ云フ、女子使用人ニシテ此ノ任務ヲ有スル者ハ海員トシテ權利ヲ有シ義務ヲ負フ、水先人ハ之ヲ海員ト看做サス、海員全部ハ船舶乗組員ヲ構成ス

註、上等給仕及上等料理人ハ然ラス

第三條 船長ハ船舶職員及海員ノ職務上ノ上長トス、船舶所有者若ハ船長ニ於テ分掌勤務ニ於ケル代理ニ關シ別段ノ定メヲ爲ササルトキハ其ノ代理權ハ運轉士ニ屬シ運轉士欠ケタルトキハ適任水夫ニ屬ス船舶職員ハ全海員ノ上長トス、船舶乗組員若ハ海員ニ適用スヘキ規定ハ別段ノ定メナキ場合ニ限り之ヲ船舶職員ニ適用ス

船舶職員相互ノ職務上ノ關係、特ニ相異ナル任務ヲ有スル船舶職員間ノ關係ハ船舶所有者又ハ船長ノ特別ノ定メニ從フ、汽船ニ在テハ當直機關士ハ當直勤務ニ從事中機關部ニ對スル命令ヲ實行スヘキ義務アル範圍内ニ於テ當直運轉士ニ服從ス

船舶職員ノ外分掌事務ニ關シ上長タルヘキ海員ハ船長之ヲ定メ且(註)揭示ニ依リテ之ヲ乗組員ニ告知スルコトヲ要ス

註、船員居室内

第四條 聯邦參議院ハ船舶ニ乗組ムヘキ船舶職員ノ數、種類及船長並船舶職員ノ有スヘキ資格證明書ノ程度ニ關スル規則ヲ發布ス此ノ規則ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ之ヲ告知スルコトヲ要ス

註、刑罰規定ニ付テハ第百十八條第二項參照

第五條 本法ニ依リ指定セラレタル權能ヲ有シ義務ヲ負フ海員局ハ帝國內ニ於テハ聯邦法律ニ依リ保護領域ニ於テハ帝國宰相ニ依リ設置セラレタル官廳(註一)ヲ謂フ、外國ニ於テハ開港ノ帝國領事之ニ當ル帝國內ノ海員局ノ組織ハ聯邦法律ノ標準ニ從ヒ聯邦政府ノ支配ニ屬シ其ノ職務執行ニ關シテハ帝國ノ最高監督ニ服ス、第百二十二條ニ規定シタル裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ帝國內ニ於ケル海員局ハ一人ノ議長及航海上ノ智識ヲ有スル二人ノ陪審員ヲ以テ組織スルコトヲ要ス

領事カ船舶共有者ノ二人若ハ其ノ代理人ナル場合ニ於テ故障ヲ提起シタル船舶職員若ハ過半數ノ海員カ其ノ干與ニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ第五十八條ニ掲クル當該船舶ニ關スル海員局ノ職務ヨリ之ヲ除斥ス(註二)



註一、一九〇三年十月ノ布告

註二、航海能ハ無キ又ハ惡シキ若ハ不充分ナル糧食ヲ有スル疑アル船舶ノ審査

第六條 保護領域ハ本法ニ於テハ之ヲ内地ト看做ス

本法ニ於テ獨逸ノ港ト稱スルハ單ニ帝國本土内ノ海港ヲ謂フ

第二章 船員手帖及海員雇入契約ノ公認

第七條 帝國領域内ニ於テ海員トシテ勤務セントスル者ハ豫メ海員局ニ出頭シテ其ノ氏名、出生地、及年齢ヲ證明シ且當該官廳ヨリ正規ノ船員手帖ノ交付ヲ受クルコトヲ要ス

船員カ獨逸人ナルトキハ滿十四歳ヲ越ユルニアラサレハ船舶勤務ニ従事スルコトヲ得ス又其ノ兵役關係ヲ證明シ若シ未成年者ナルトキハ船舶勤務ニ服スルニ付法定代理人ノ同意ヲ得タル事ヲ證明スルコトヲ要ス但後見裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

船員手帖ノ外船員法、海員ノ送還ニ關スル商船ノ義務ニ關スル法律、海員ニ對スル職業媒介ニ關スル法律及海員並準海員ノ兵役關係ニ關スル規則ニシテ官廳ノ編纂ニ係ルモノノ複寫ヲ海員ニ交付スルコトヲ要ス

検査ノ結果従事ス可キ勤務ニ適當ナル體格ヲ有スト認メラレタル者ノ海員トシテ登録セラルヘキ範圍ハ

聯邦參議院之ヲ定ム

第八條 各個ノ場合ニ與ヘタル法定代理人ノ同意(第七條)ハ別段ノ定メナキトキハ凡テノ場合ニ對シ之ヲ與ヘタルモノト看做ス

法定代理人ノ同意ヲ得タル未成年者ハ海員雇入契約ノ締結並解除又ハ該契約ヨリ生スル義務ノ履行ニ關スル法律行為ニ付無制限ノ能力ヲ有ス

註、第七條第二項ノ(註)參照

第九條 正規ノ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者更ニ之ヲ受ケムトスルトキハ舊船員手帖ヲ提出シ若ハ其ノ紛失ヲ證明スルコトヲ要ス

海員局ハ舊船員手帖ノ提出若ハ紛失ノ疏明ノ事實ヲ新船員手帖ニ記載スルコトヲ要ス  
海員局ハ船員手帖ノ紛失カ流明セラレタルコトヲ記載スルト同時ニ以前ノ地位、雇傭關係、雇傭期間及海員ノ充分ナル證明ニ基キ其ノ負擔スヘキ老廢保險ノ保險料週間ニ關スル認證ヲ附加スルコトヲ要ス

第十條 船員手帖ノ内容ニ從テ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ハ前雇傭關係ノ消滅ヲ海員局ノ爲シタル船員手帖ノ認證(第二十二條及第二十五條)ニヨリテ證明スルニアラサレハ新ニ公認ヲ受クルコトヲ得ス但認證ヲ受クルコト能ハサリシコトヲ海員局ニ於テ認メタル場合ニ他ノ方法ニ依リ雇傭關係ノ消滅ヲ疏明シ海員



局力之ニ關シ船員手帖ニ爲シタル認證ハ前記ノ認證ニ代ル効力ヲ有ス

第十一條 船員手帖ノ組織及價格ハ聯邦參議院之ヲ定ム記入交付ハ手數料並印紙ヲ要セス

船員手帖ハ受有者ノ兵役關係並癆疾保險ニ關シテ憑據トナルヘキモノトス

第十二條 船長ハ以下數條ノ規定(第十三條乃至第二十六條)ニ從ヒテ乘組員ノ公認(海員雇入ノ公認、海員雇止ノ公認)ヲ受クルノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

船長若ハ海員雇入契約締結ノ權限ヲ委任セラレタル船舶所有者ノ代理人及海員ハ公認ノ際出頭スルコトヲ要ス、海員ノ職業媒介ヲ業トスル者ハ代理人ニ任スルコトヲ得ス(註)

註、但海員雇入媒介業者ハ公認ニ立會フコトヲ得、一九〇三年六月十六日ノ布告ニ依レハ本項ハ三百立方厘米以下ノ容積ヲ有スル沿海航行船舶、快遊船及三百立方厘米以下ノ容積ヲ有スル航洋漁業船舶ニハ之ヲ適用セス

第十三條 海員雇入契約ノ公認ハ海員局ニ出頭シテ船員トノ間ニ締結シタル海員雇入契約ヲ開陳スルニヨリ成立ス公認ハ航海ノ開始若ハ繼續以前ニ之ヲ受クルコトヲ要ス但之ニ依リ航海ノ遲滯ヲ生スル場合ニ於テハ最初ニ到着シタル海員局ニ出頭シテ之ヲ受クルコトヲ得、公認ノ遲滯若ハ中止ノ理由ハ之ヲ航海日誌ニ記載スルコトヲ要ス、帝國內ニ於テ公認ヲ受ケタル場合ニ於テハ船員手帖ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條 海員雇入契約公認ノ手續ハ海員局ニ於ケル海員名簿ノ記入ヲ以テ完了ス、乘組員ノ全員カ同時

ニ一個ノ手續ニ依リテ公認セラレサリシ場合ニハ海員名簿ノ記入ハ最初ノ手續ニ基キ之ヲ行フ

海員名簿ニハ次ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス船舶ノ名稱並國籍、船長ノ氏名並住所、海員ノ氏名、住所、職務上ノ地位、發航港、海員雇入契約約款特ニ超過時間賃銀率(第三十五條第三項、第三十七條第三項)及他ノ特約アルトキハ其ノ特約、海員一日分ノ食料及飲料ハ特ニ海員名簿ニ於テ明ニスルコトヲ要ス、船舶職員トノ間ニ爲シタル特約ニ關スル記載ハ重要ナル事項ノミニ制限スルコトヲ得、第一條第二項ニ依リテ認メラレサル特約ヲ爲スコトヲ得ス

海員名簿ノ其ノ他ノ組織ハ聯邦參議院之ヲ定ム

海員名簿ハ航海中船舶内ニ備ヘ置キ且請求アルトキハ海員局ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 海員ガ海員名簿作成後ニ於テ初メテ雇入契約ノ公認ヲ受クル場合ニ於テハ海員局ハ其ノ事實ヲ海員名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第十六條 帝國內ニ於テ海員雇入契約ノ公認ヲ爲ス場合ニ於テ海員局ハ公認ノ事實及勤務着手ノ時期ニ關シ各海員ノ船舶手帖ニ認證ヲ爲スコトヲ要ス此ノ認證ハ同時ニ出發券若ハ通航券ノ(see pass)効力ヲ有ス、帝國外ニ於テハ船員手帖此ノ目的ノ爲メニ提出シタル場合ニ限リ認證ヲ爲スコトヲ要ス

船員手帖ハ雇傭關係繼續中船長之ヲ保管ス



第十七條 海員雇入公認ヲ受ケタル海員カ避クヘカラサル障害ニ依リ勤勞ニ服スルコト能ハサルトキハ遲滞ナク船長及雇入公認ヲ爲シタル海員局ニ之ヲ届出ルコトヲ要ス、船長ハ海員若ハ雇入契約公認ヲ爲シタル海員局ニ速ニ船員手帖ヲ送付スルコトヲ要ス

第十八條 海員雇入契約終了ノ届出ハ船長及雇備關係ヲ離脱シタル海員ニ於テ海員局ニ出頭シテ雇備關係ノ終了ヲ告知スルニ依リ成立ス、海員雇入契約終了ノ届出ハ雇備關係ノ終了後速ニ之ヲ爲シ且特約ナキ場合ニ於テハ碇泊港ノ海員局ニ、船舶カ行衛不明トナリタル場合ニ於テハ最初ニ到着シタル港ノ海員局ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 海員雇入契約終了ノ届出ヲ爲スニ當リ船長ハ豫メ雇止メタル海員ノ船員手帖ニ從來ノ地位、雇備關係及雇備期間ヲ認證シ且請求ニ基キ行狀證明書ヲ附與スルコトヲ要ス

前項ノ證明ハ海員手帖ニ記載スルコトヲ得ス、證明ハ手數料及印紙ヲ要セス

註、警察上又ハ裁判上ノ處罰モ亦之ヲ記入スルコトヲ得ス

第二十條 認證及證明書(第十九條)ニ爲シタル船長ノ署名ハ雇止ノ公認ヲ爲シタル海員局ニ於テ手數料及印紙ヲ收納セスシテ之ヲ公證ス

第二十一條 船長カ證明書ノ附與(第十九條)ヲ拒絶シ又ハ證明書若ハ船員手帖ノ認證ニ付海員カ其ノ記載

事項ノ當否ヲ爭ヒタル場合ニハ海員局ハ當該海員ノ申請ニ基キ事實ヲ審査シ且審査ノ結果ヲ海員ニ認證スルコトヲ要ス

第二十二條 雇止ノ公認ヲ爲シタルトキハ海員局ハ雇止ヲ受ケタル海員ノ船員手帖及海員名簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 海員名簿作成後少クモ二年ヲ經過シタル後ニ於テ船長ノ申請アルトキハ海員局ハ船舶乗組員現在ノ状態ニ適合スル海員名簿ノ抄本ニ公證ヲ爲シ之ヲ船長ニ附與スルコトヲ要ス、此ノ抄本ハ爾後海員名簿トシテ使用スルコトヲ要ス

第二十四條 海員名簿竝第二十三條ニ依リ附與シタル抄本ハ航海終了後若ハ海員名簿ノ内容ヲ爲セル公認雇入(第十四條)期間終了後ニ於テ雇止ノ公認ヲ爲シタル海員局ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

送付ヲ受ケタル海員局ハ書類ヲ船籍港ヲ管轄スル海員局ニ若之ナキトキハ船舶登記港ヲ管轄スル海員局ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第二十五條 海員ノ現在員ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ前掲ノ規定ニ從ヒ公認ヲ受クルトキハ航海ノ遲延ヲ免レサル場合ニ於テハ船長ハ其ノ後最初ニ到着スヘキ港ノ海員局ニ障害ノ原因ヲ陳述シテ公認ノ追完ヲ受クルコトヲ要ス、追完不能ナルトキハ其ノ事實ヲ届出ツルコトヲ要ス、海員局ハ海員名簿及當該海



員ノ船員手帖ニ届出事項ヲ記入スルコトヲ要ス

註、例ハ船員ノ死亡若ハ脱船ノ場合ノ如シ

第二十六條 海員名簿ノ作成ヲ包含スル公認手續ノ費用ハ船舶費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

帝國內ノ全海員局ニ對シ劃一ノ金額ヲ納付スヘキコトヲ内容トスル費用ニ關スル規定ハ聯邦參議院之ヲ定ム

第三章 契約關係

第二十七條 海員雇入契約ノ効力ハ書面ノ作成及爾後ニ爲スヘキ海員雇入契約ノ公認ヲ條件トセス、海員

雇入ニ際シ船長又ハ船主ノ代理人(第十二條第二項)ノ署名アル證明書(海員雇入契約書)ヲ船員ニ交付スルコトヲ要ス、海員雇入契約書記載事項左ノ如シ

船舶ノ名稱

勤務上ノ地位

航海又ハ契約存續期間

給料額

海員雇入契約公認ノ時及場所

解約豫告期間其ノ他海員雇入契約消滅ニ關スル時期ノ定メハ契約兩當事者ニ對シ同一ナルコトヲ要ス之

ニ異ル特約アル場合ニハ海員ハ相手方ニ屬スル期間若ハ時期ノ定メヲ自ラ主張スルコトヲ得

第二十八條 海員雇入契約ハ一航海若ハ一定ノ期間ニ對シ之ヲ締結スルコトヲ得

一航海ノ雇入契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ終了ノ時期ヲ示サ、ルトキハ他ノ特約ナキ場合ニ限リ第六

十九條ノ規定ヲ除キ該契約ハ發航港(第十四條)ニ歸着スルトキ迄繼續ス

不定期間ノ雇入契約ノ場合ニ於テハ該契約中ニ解約豫告期間ヲ示シ若ハ他ノ方法ニ依ル雇傭關係ノ終了

ニ關スル定メヲ爲スコトヲ要ス、別段ノ定メナキトキハ當事者ハ船舶カ荷物ノ陸揚若ハ積載ノ爲メ寄港

シタル港ニ於テ二十四時間ノ解約豫告期間ヲ嚴守シテ契約ヨリ脱退スルコトヲ得

註、船舶ノ喪失(行衛不明)

第二十九條 海員雇入契約締結ノ際給料ノ額ニ關シ明示ノ約定ナキ場合ニ於テ別段ノ定メナキトキハ海員

雇入契約ノ公認ヲ爲シタル港ノ海員局カ海員雇入契約公認ノ當時其ノ地ニ於テ普通ナリト宣告シタル給

料ヲ約シタルモノト看做ス

第三十條 海員カ同一ノ期間ニ對シ二個以上ノ契約ニ依リ同時ニ海員雇入契約ヲ結ヒタル場合ニハ其ノ契

約ノ一ニ基キ雇入公認アリタルトキハ其ノ契約、然ラサルトキハ最初ニ締結シタル契約他ノ契約ニ優先



第三十一條 海員カ海員名簿作成後海員雇入契約ヲ結ヒタル場合ニ於テ特約ナキトキハ海員名簿ノ内容ヲ爲セル他ノ海員トノ間ニ締結セラレタル契約々款ヲ之ニ適用ス

第三十二條 自己ノ所持品ヲ携帶シテ乘組ミ且船舶勤務ヲ履行スヘキ海員ノ義務ハ別段ノ條件ナキトキハ雇入契約ノ公認ノトキキ以テ開始ス、勤務着手ノ時期ハ雇入契約締結ノ際ニ、碇泊場所若ハ乘船地ハ雇入契約公認ノ際ニ之ヲ海員ニ告知スルコトヲ要ス

海員カ二十四時間以上勤務着手ヲ遅延シタルトキハ船長又ハ船舶所有者ハ海員雇入契約ヲ解除スルコトヲ得、補充ノ爲雇入レタル者ニ餘分ニ支拂ヒタル金額其他遅延ニヨリ生シタル損害ノ賠償請求權ハ契約ノ解除ニ依リテ妨ケラルルコトナシ

第三十三條 海員雇入契約公認後正當ノ理由ナクシテ勤務ノ着手若ハ繼續ヲ爲サル海員ハ船長ノ申請ニ依リ海員局ニ於テ、海員局ナキトキハ地方警察官署ニ於テ其ノ義務ヲ履行セシムル爲強制的ニ抑留スルコトヲ得

海員ハ之ニ依リ生シタル費用ヲ賠償スルコトヲ要ス

註、刑罰規定第九十三條

第三十四條 海員ハ船舶勤務ニ關シテハ絶對ニ船長、船舶職員及職務上ノ上長ノ命令ニ服從シ且何時ニテモ船舶及積荷ニ關シ委任セラレタル凡テノ義務ヲ遂行スルノ義務ヲ有ス

海員ハ船舶、端艇及舢舨内竝陸上ニ於テ又通常ノ場合ニ於テモ海難ノ場合ニ於テモ等シク前項ノ義務ヲ履行スルコトヲ要ス

海員ハ雇止公認前ニ於テハ船長若ハ船舶職員ノ許可ナクシテ船舶ヲ去ルコトヲ得ス、船舶カ帝國内ノ港ニ碇泊セル場合ニ於テ海員勤務時間外ナルトキハ急迫ナル事由アルニアラサレハ上陸ノ許可ヲ拒絕スルコトヲ得ス、許可ヲ受ケタル海員ハ定メラレタル時期迄ニ歸船スルコトヲ要ス

第三十五條 船舶カ港又ハ碇泊場ニ碇泊セル場合ニ於テハ海員ハ急迫ノ場合ニ於テノミ一日十時間以上ノ勞務ニ服スル義務ヲ有ス熱帶地方ニ於テハ此ノ時間ハ八時間ニ制限ス但專ラ監視勤務若ハ船舶内ニ在ル者ノ給養、看護ノ爲メニスル勞務ニ付テハ此ノ限ニ在ラス、當直勤務ノ時間ハ之ヲ勤務時間ニ算入ス(註)前項ノ規定ハ船舶職員ニハ之ヲ適用セス、船舶職員ニ對シテハ港又ハ碇泊場ニ於テハ二十四時間内ニ少モ八時間ノ休息时间ヲ與フルコトヲ要ス

海員カ第一項ニ規定スル十時間若ハ八時間ヲ超エテ勤務ヲ爲シタル場合ニハ時間超過ノ勤務トシテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ要ス但船舶内ニ在ル者ノ給養、看護若ハ船舶安全ノ爲メ必要ナルトキハ此ノ限ニ在



ラス

註、本項ハ第三十六條第一項ト同シク快遊船、沿海航行船及海岸漁業船ニシテ三百立方メートル以下ノ容積ヲ有スルモノニハ之ヲ適用セズ

第三十六條 甲板部員及機關部員ハ航海中順序交代シテ當直ヲナスコトヲ要ス當直ヲ了ヘテ退キタル者ハ急迫ナル場合ニ於テノミ船舶勤務ヲ爲サシムルコトヲ得、汽船ニ在テハ機關當直ヲ了ヘテ交代スル者ハ交代前ニ於テ必要ナル灰ノ排出ヲ爲スコトヲ要ス、此ノ規定ハ十時間ニ滿タサル航海ニハ之ヲ適用セス(註)

大西洋ヲ横斷シテ航行スル汽船ニ在テハ機關部員ノ勤務ハ三直ニ分割ス  
船員ノ當直ヲ二直以上ニ分ツヘキ場合ニ付テハ聯邦參議院之ヲ定ム

註、前條ノ註ニ同シ

第三十七條 日曜日及祝祭日ニ於テハ船舶カ港若ハ碇泊場ニ碇泊セル間ハ絕對ノ必要、延期ノ不能若ハ人ノ交通ニ依リ止ムヲ得サルニアラサレハ勞務(當直勤務ヲ包含ス)ヲ課スルコトヲ得ス

船舶カ帝國內ノ港若ハ碇泊場ニ碇泊セル間ハ乗組員ハ日曜日若ハ祝祭日ニ於テ荷物、陸揚及積載ニ使用スルコトヲ得ス、此ノ規定ハ一定ノ時間表ニ依リ獨逸帝國郵便物ヲ輸送スル汽船ノ積荷若ハ此ノ汽船ノ陸揚、荷積ニ使用スル小形船、旅客ノ手荷物及腐敗シ易キ貨物ニハ之ヲ適用セス、此ノ他聯邦ノ中央官

廳ノ指定シタル官廳ハ急迫ノ場合申請ニ基キ此ノ規定ノ例外ヲ許スコトヲ得

日曜日及祝祭日ニ於ケル勤務ハ(第一項、第二項)時間超過ノ勤務トシテ報酬ヲ與フルコトヲ要ス但船舶内ニ在ル者ノ給養及看護ノ爲又ハ急迫ナル危険アル場合ニ於テ船舶安全ノ爲必要ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

急迫ナル事由ナキ限り港若ハ碇泊場ニ於テ日曜日及祝祭日ニ海員ニ其ノ宗派ノ神事ニ參列スル機會ヲ與ヘ且之ニ必要ナル休暇ヲ與フルコトヲ要ス

註、港ノ勞働者ハ又日曜日ニ陸揚積荷ヲ爲スコトヲ要ス

第三十八條 航海中日曜日及祝祭日ニハ船舶ノ安全並航海機關ノ手入、帆ノ乾燥、端艇勤務及船舶内ニ在ル者ノ給養及看護ノ爲絕對ニ必要ナル事項ヲ除キ急迫ナル場合ノ外乗組員ニ勞務ヲ課スルコトヲ得ズ  
第三十七條第四項ノ規定ハ航海中ノ船舶ニ之ヲ準用ス、海員ノ要求アルトキハ其ノ屬スル宗派ノ共同禮拜ニ參列セシムルコトヲ要ス

第三十九條 第三十七條、第三十八條ニ於テ祝祭日ト稱スルハ内地ニ於テハ碇泊地ノ聯邦政府ニ依リ定メラレタル日ヲ謂ヒ外國及航海中ニ在テハ内地ニ在ル船藉港ノ祝祭日ヲ謂フ

前項ノ規定ニ依ル祝祭日ナキトキハ帝國宰相ノ命令ニ依リ祝祭日ヲ定ム、第三十七條第四項ニ所謂外國



ニ於ケル祝祭日ノ中ニハ碇泊地ノ祝祭日ニシテ教會ノ爲メニ存スルモノヲ包含ス

第四十條 第三十五條第三項及第三十七條第三項ノ規定ハ船舶職員ニハ之ヲ適用セス但別段ノ定メアルト

キハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 海上ノ危険特ニ船舶難破ノ虞アル場合竝船舶若ハ積荷ニ對スル暴力ニ依ル侵害ノ場合ニハ海

員ハ船舶及積荷ヲ保全スル爲ニ命セラレタル協力ヲ躊躇ナク履行シ且船長船舶内ニ在ル限其ノ承諾ナク

シテ船舶ヲ去ルコトヲ得ス

海員ハ船舶難破ノ場合ニハ乗客若ハ其ノ所持品ノ救助竝船體各部及積荷ノ保全ノ爲船長ノ命令ニ從ヒ全

力ヲ盡シ且海難救助ノ場合ニハ給料ノ繼續及給養ヲ受クルノ條件ノ下ニ協力ヲ爲スノ義務ヲ有ス

第四十二條 海員ハ其ノ雇入契約カ船舶行衛不明ノ爲消滅シタル場合ニ於テモ(第六十九條)請求アルトキ

ハ海難報告ニ協力シ且宣誓ニ依リテ其ノ陳述ヲ確保スルコトヲ要ス

海員ハ契約消滅後ニ於テ引止メラレタル爲メニ生シタル費用、旅費及給養費用ヲ要スルトキハ其ノ支拂

ヲ受ケ此ノ義務ヲ履行スルコトヲ要ス但費用ノ額ニ付爭アル場合ニハ海難報告ヲ受ケタル官廳、外國ニ

於テハ領事之ヲ確定ス、海員ノ請求アルトキハ引止メラレタル爲メニ生シタル費用、旅費及給養費用ニ對

シ相當ナル前拂ヲナスコトヲ要ス

### 目次

一、獨逸船員法.....	一頁
一、海員船舶勤務適否審査ニ關スル布告.....	五九
一、商船船員ノ常用室、洗濯室、浴室及便所ニ關スル布告.....	六三
一、海員送還ニ關スル商船ノ義務ニ關スル法律.....	七一
一、一千九百十年六月二日ノ職業媒介人法.....	七五
一、船員及準船員ノ兵役關係及其ノ海員トシテノ公認ニ關スル規則類纂.....	八三
一、大航海ノ食物表.....	一〇三
一、海上船舶ノ食糧及船員常用室ニ關スル命令.....	一〇七
一、商船内ノ衛生ニ關スル命令.....	一一一



註、民訴三九三ノ一ニヨレハ宣誓ヲ爲スコトヲ得サル十六歳未満ノ船舶ボーイニ付テモ亦同シ

第四十三條 發航後海員カ契約上ノ勤務ニ不適當ナルコト明白トナリタル場合ニハ船長ハ海員ノ地位ヲ低下シ之ニ應シテ給料ヲ減額スル權能ヲ有ス、此ノ權能ハ船舶職員ニ對シテハ存在セス

此ノ權能ヲ行使シタルトキハ船長ハ其ノ處置及之ヲ爲スコトヲ要スルニ至リタル事實ヲ遲滯ナク航海日誌ニ記載シ之ヲ海員ニ讀聞セ且航海日誌ニ此ノ事實及時期ヲ記入スルコトヲ要ス給料ノ引下ハ其ノ告知及記載以前ニハ效力ヲ生セス

海員ノ請求アルトキハ船長ハ前項記載事項ノ複本ニ署名シテ海員ニ交附スルコトヲ要ス  
海員ハ其後最初ニ到着シタル港ノ海員局ニ對シ其ノ受ケタル前掲ノ處置ニ對スル裁決ヲ請求スルコトヲ得、海員局ノ裁決後若海員局ノ裁決ヲ請求セサリシトキハ雇止公認ノ際當該海員局ニ於テ事實ノ顛末ヲ船員手帖ニ記入スルコトヲ要ス

第四十四條 給料ハ雇入公認ノ日ヨリ若公認ノ日カ勤務着手ノ日ニ先ツトキハ勤務着手ノ日ヨリ起算シ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

乘船地ニ到達スルニ必要ナル<sup>(註)</sup>旅行期間ハ(第三十二條)之ヲ勤務期間ト看做ス

註、快速船反三百立方米突以下ノ海洋漁業船、沿海航行船ノ乗組員ニ對シテハ此ノ規定ハ海員名簿ニ於ケル特別ノ約定ニ依リ之



ヲ變更スルコトヲ得(一九〇三年六月十六日聯邦參議院布告)

第四十五條 海員ハ別段ノ定メナキトキハ航海若ハ雇傭關係終了後ニ於テ給料ヲ請求スルコトヲ得

海員ハ船舶カ全部若ハ大部分ノ荷卸ヲ爲シタル港ニ於テ其ノ時迄ニ受クヘキ給料ノ半額(第八十條)ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得但雇入ノ公認後三ヶ月ヲ經過シタルコトヲ要ス、同一ノ方法ニ依リ海員ハ以前ノ支持後順次三ヶ月ヲ經過スル毎ニ最後ノ支拂以後ニ受クヘキ給料ノ半額ノ支拂ヲ請求スル權利ヲ有ス期間ヲ定メテ海員雇入契約ヲ爲シタル場合(第二十八條)ニハ海員ハ發航港歸着ノ際其ノ時迄ニ受クヘキ給料ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 雇傭契約終了ノ際海員ニ支拂フヘキ海員雇入契約ニ基ク給與金ハ當該海員ニ之ヲ拂渡スコトヲ要ス外國ニ於テ其ノ他ノ法律カ他ノ官廳ヲ指定セサル限り雇止ノ公認ヲ爲スヘキ海員局ニ於テ若ハ其ノ媒介ニ依リテ之ヲ拂渡シ且海員局ハ雇止公認ノ記録ニ之ヲ認證スルコトヲ要ス、海員支障アル場合ニハ其ノ同意ヲ得テ家族ノ一人ニ之ヲ拂渡スコトヲ得、宿屋若ハ酒屋ニ於テ支拂ヲナスコトヲ得ス海員局ノ干與ハ航海ノ遲延ヲ來ス虞アル場合ニ限り之ヲ省クコトヲ得

海員局ハ海員ノ請求アルトキハ雇止公認ノ際之ニ支拂フヘキ給料ノ全部又ハ一部ヲ受領シ且海員ノ通知ニ基キ外國ニ居住スル其ノ親屬若ハ貯蓄金庫其ノ他ノ保管所ニ無料ヲ以テ送付スルコトヲ要ス、送付ノ

爲特ニ支拂ヒタル費用ハ海員カ獨逸人ナルトキニ限り船舶所有者ノ負擔トズ

註、此文字ハ方言的意味ニテ之ヲ云フ例ハ船員ノ許嫁ニ支拂フカ如シ

第四十七條 發航前給料ノ前拂ヲ爲シ若シハ就役資金ヲ支拂フヘキ範圍ハ特約ナキトキハ海員ノ雇入公認ヲ爲スヘキ港ノ地方慣習ニ依リテ之ヲ定ム

第四十八條 海員ニ對スル支拂ハ其ノ選擇ニ從ヒ前金拂ナルトキハ船長ノ選擇ニ從ヒ現金若ハ船舶所有者ニ宛テ振出サシタル爲替手形ニ依リ之ヲ履行スルコトヲ要ス爲替手形ニ依ル支拂ノ委託ハ給料ノ前拂ノ場合ニ限り海員カ發航ノ際船舶内ニ現在スルコトヲ條件トシテ之ヲ爲スコトヲ得、其ノ他ノ場合ニ於テハ無條件且一覽拂ニ振出スコトヲ要ス

第四十九條(註) 發航前給料決算簿ヲ用意シ之ニ海員ノ受クヘキ給料額及超過時間給料ヲ一定ノ時期ニ計算シ雇入契約ニ基キ爲シタル前拂及一部拂及就役資金ヲ與ヘタルトキハ其ノ額、外國通貨ニ依ル支拂ノ場合ニハ標準相場ヲ記載スルコトヲ要ス支拂アル毎ニ海員ニ於テ給料決算簿ニ支拂ノ受領ヲ記入スルコトヲ要ス、超過時間服役數及之ニ依リテ得ヘキ超過時間給料ハ每週遅クモ發港ノ翌日マテニ給料決算簿ニ記載シ且此ノ記載事項ヲ海員ニ提示シテ承認ノ署名ヲ爲サシムルコトヲ要ス、海員カ承認ヲ拒絕シタルトキハ此ノ事實及其ノ表示シタル理由ヲ該決算簿ニ記載スルコトヲ要ス



海員ニハ其ノ請求ニ基キ更ニ特別ナル給料簿ヲ交附スルコトヲ要ス此ノ給料簿ニハ當該海員ノ受クヘキ給料、超過時間給料並給料簿所持者ノ給料ニ付キ爲シタル凡テノ支拂及外國通貨ニ依ル支拂ノ場合ニハ其ノ標準相場ヲ記載スルコトヲ要ス、雇止公認前海員ノ給料簿ニ給與金ノ總計算ヲ爲スコトヲ要ス

註、本條ハ快遊船及三百立方米突以下ノ沿海航行船、海洋漁業船ニハ之ヲ適用セス(一九〇三年七月十六日聯邦參議院ノ布告)

第五十條 甲板部員及機關部員ノ員數カ航海中減少シ且航海中勞力ノ需要減少スル見込ナキ場合ニハ船長ハ事情ノ許ス限リ人員ノ補充ヲ爲スコトヲ要ス人員ノ補充ヲ行ハサルカ爲メニ航行中節約シタル給料額ハ人員減少ノ爲メニ特別ノ勞務ヲ生シタル當該分掌勤務ノ各海員ニ其ノ提供シタル特別ノ勞務及給料ノ割合ニ應シテ之ヲ分配スルコトヲ要ス但人員減少カ海員ノ脱船ニ依リテ生シ且脱船海員ノ所持品カ船舶内ニ殘存セサル場合ニ於テハ節約シタル給料ノ分配ヲ請求スルコトヲ得ス

註、單ニ航行中ナルコトヲ注意スヘシ

第五十一條 發航ノ際海員カ行衛不明トナリタルトキハ船長ハ遲滞ナク最初ニ此ノ事實ヲ發見シタル地域ヲ管轄スル海員局ニ搜索ノ願出ヲナシ且失踪海員ノ船員手帖ヲ送付スルコトヲ要ス

第五十二條 船舶カ二ヶ年以上國外ニ在ル場合ニ於テハ引續キ二ヶ年間勤務セル船員ニ對シ其ノ給料ヲ引上クルコトヲ要ス但期間ニヨリ給料ヲ定メサルトキハ此限ニ在ラス

給料ノ引上ハ左ノ標準ニ依ル

一、船舶給仕ハ第三年ノ開始ト共ニ海員名簿ニ定メタル若ハ海員名簿ニ基キ平均額ヲ爲ス二等水夫ノ給料、第四年ノ開始ト共ニ海員名簿ニ定メタル一等水夫ノ給料ヲ支給スルコト

二、二等水夫ハ第三年ノ開始ト共ニ海員名簿ニ定メタル一等水夫ノ給料ヲ支給シ第四年ノ開始ト共ニ其ノ外更ニ其ノ五分ノ一ノ増額ヲ爲スコト

三、其他ノ海員ニ對シテハ第三年ノ開始ト共ニ海員名簿ニ記載シタル給料ノ五分ノ一、第四年ノ開始ト共ニ更ニ其ノ本來ノ額ノ五分ノ一ヲ増額スルコト

海員ハ第二項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ給料引上ト共ニ之ニ相當スル階級ニ進ムモノトス

第五十三條 商法第八六二條及第八六三條ニ依リ行衛不明ト看做サルヘキ船舶内ニ在リタル船長及乗組員ノ債權ニシテ雇傭契約及海員雇入契約ニヨリテ生シタルモノハ船舶喪失期間ノ滿了ト共ニ辨濟期ニ達ス雇傭關係ハ船舶ニ關スル最後ノ通知ノ到着シタル日ノ翌日ヨリ半ケ月ヲ以テ終了シタルモノト看做ス該債權金額ハ之ヲ船籍港ヲ管轄スル海員局ニ若之ナキトキハ登記港ヲ管轄スル海員局ニ送付スルコトヲ要ス送付ヲ受ケタル海員局ハ受領ノ權利ヲ有スル者ニ對シ交付ノ媒介ヲ爲スコトヲ要ス

第五十四條 海員ハ勤務開始ノ時ヨリ雇止公認ニ至ル迄船舶ノ計算ニ於テ賄ヲ受クル權利ヲ有ス但雇止公



認ノ爲メ航海ノ遅延ヲ來ス場合ニ於テハ此ノ期間ハ雇傭關係終了迄トス、海員ハ給與セラレタル食物及飲料ヲ唯自己ノ需要ニノミ供シ其幾分ト雖モ之ヲ讓渡、浪費、若ハ猥ニ他ニ持去ルコトヲ得ス、賄ハ特約ニ基キ相當額ノ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十五條 乗組員ハ船舶内ニ於テハ勤務開始ノ時ヨリ雇止公認ニ至ル迄若雇止公認ノ爲航海ノ遅延ヲ來ス場合ニ於テハ雇傭關係終了迄乗組員ノ數及船舶ノ大サニ相應スル乗組員及其ノ所持品用ノ整頓シ且十分ノ通風アル船内居室ヲ請求スル權利ヲ有ス

不可抗力其ノ他ノ理由ニ依リ一時船舶内ニ於テ海員ノ居室ヲ與フルコト能ハサルトキハ他ノ相當ナル宿泊所ヲ給スルコトヲ要ス

第五十六條 海員ニ給與スヘキ一日分ノ食物及飲料(第五十四條)ノ最少限ハ特約ナキトキハ船籍港若船籍港ナキトキハ登記港ノ地方規則ニ依リテ之ヲ定ム、聯邦政府ハ命令ヲ以テ詳細ナル規則ヲ發布スルコトヲ得但内地ニ船籍港若ハ登記港ヲ有セサルモノニ付テハ帝國宰相之ヲ定ム

船員常用室(第五十五條)ノ大サ、設備、洗濯室、浴室及船舶内ノ便所ノ設備竝船舶内ニ備付クヘキ藥劑ニ關シテハ職邦參議院之ヲ議定ス、聯邦參議院ノ議定事項ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第五十七條 船長ハ航海カ著シク遅延シタル場合若ハ事變發生ノ爲食物ノ定量ヲ減少シ若ハ食物及飲料ノ選擇ニ變更ヲ加フルコトヲ得

船長ハ前項ノ減少若ハ變更ヲ爲シタル時期、原因及方法ヲ航海日誌ニ記載スルコトヲ要ス  
海員ハ其ノ受ケタル缺乏ニ相應スル賠償ヲ受クル權利ヲ有ス、此ノ請求權ニ關シテハ訟訴手續ヲ保留シ雇止公認ヲ爲シタル海員局之ヲ決定ス

第五十八條 一名ノ船舶職員若ハ三名以上ノ海員カ雇入船舶ノ不適航、乗組員ノ需要ノ爲メニ貯藏セル食物及飲料ノ不充分若ハ腐敗ニ付海員局ニ故障ノ申立ヲ爲シタルトキハ海員局ハ出來得ル限迅速ニ求メ得ラルル鑑定人及其ノ地ニ現在スル故障提起者ヲ召喚シテ船舶若ハ貯藏品ノ検査ヲ命シ且其ノ結果ヲ航海日誌ニ記載スルコトヲ要ス、故障理由アルコト分明トナリタルトキハ海員局ハ適當ナル救濟方法ヲ講スル爲助力スルコトヲ要ス

船長カ此ノ目的ノ爲メニ發セラレタル命令ニ從ハサルトキハ船舶職員及海員ハ第七十四條第一號ノ場合ニ付規定シタル效果ヲ有スル雇止(第七十六條)ノ請求ヲ爲スコトヲ得(註)

註、賠償トシテ一ヶ月分ノ給料ヲ求ムル請求權

第五十九條 海員カ勤務著手後若ハ雇入公認後疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケタル場合ニハ船舶所有者ハ看護



及療養ノ費用ヲ負擔ス、第二項ノ場合ヲ除クノ外此ノ義務ハ次ノ期間繼續ス

一、海員カ疾病若ハ負傷ノ爲メ航海ヲ爲ササリシトキハ疾病若ハ負傷後二十六週間

二、發航後ナルトキハ海員カ船舶ヲ去リタル後二十六週間

業務ニ依ル事變ニ基キ負傷シタル場合ニ於テハ第一號ノ期間ハ之ヲ十三週間ニ制限ス但シ第二號ノ場合ニ於テハ船員カ獨逸ノ港ニ於テ船舶ヲ去リタルトキ若ハ外國ノ港ヨリ獨逸ノ港ニ於ケル病院ニ送還セラレタルトキニノミ之ヲ制限ス、負傷者ニ對スル船舶所有者ノ義務ハ同業組合カ療養ヲ引受ケタル時及範圍ニ於テ消滅ス

船舶所有者ハ給養及治療ヲ病院ニ於テ海員ニ與フルコトヲ得

疾病若ハ負傷ノ爲メ帝國領域外ニ殘留セル海員ハ本人、診療ニ從事セル醫師又ハ海員局ノ同意ヲ得テ之ヲ獨逸ノ港ニ於ケル病院ニ送還スルコトヲ得、海員カ同意ヲ與フルコト能ハサル場合若ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒絕シタル場合ニ於テハ海員ノ現在セル地ヲ管轄スル海員局ハ醫師ノ意見ヲ聽キ之ヲ同意ニ代ウルコトヲ得

正當ノ理由ナクシテ醫師ノ指定シタル手當ヲ拒ミ且醫師ノ判斷ニ從ハハ之カ爲ニ治療ヲ無効ナラシメ若ハ非常ニ困難ナラシメタル海員ハ無料ノ看護及療養ヲ受クル權利ヲ失フ、理由ノ當否、權利喪失ノ時期

及期間ニ關シテハ海員局假ニ之ヲ決定ス

海員カ乗組船舶ト共ニ發航港(第十四條)ニ歸航セサル場合ニ於テハ前記ノ港迄ノ無賃送還(第七十八條、第七十九條)若ハ船長ノ選擇ニ從ヒ之ニ相當スル賠償金ヲ請求スル權利ヲ有ス但後ノ場合ニ於テ爭アルトキハ海員局假ニ之ヲ決定ス

第六十條 發航港カ帝國外ニ在ル場合ニ於テハ獨逸ノ港ニ於テ雇入レラレタル海員ハ第五十九條第六項、

第六十六條第三項、第六十九條、第七十一條、第七十二條及第七十九條ノ場合ニ雇入レラレタル港迄ノ送還ヲ請求スルコトヲ得、其ノ他前掲ノ各場合ニ海員ノ有スル送還請求權ニ關シテハ發航港ニ代ウルニ他ノ港特ニ雇入又ハ其ノ公認ヲ爲シタル港ヲ以テスルコトヲ約スルコトヲ得

船舶所有者若ハ其ノ代理人カ海員局ノ定メタル期間内ニ海員ノ無賃送還ヲ爲ササルトキ又ハ船舶所有者若ハ其ノ代理人不在ノ爲適當ナル處置ヲ爲スコト能ハサルトキハ海員局ハ船舶所有者ノ負擔スヘキ費用ノ増加ヲ生セサル場合ニ限リ海員ノ申請ニ從ヒ法定若ハ約定ノ送還港ニ代ウルニ他ノ港ヲ以テスルコトヲ得

第六十一條 疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケタル海員ノ給料ヲ受クル期間ハ左ノ如シ

一、航海ヲ爲ササリシトキハ勤務停止ノ時期迄



二、發航後ナルトキハ海員カ船舶ヲ去リタル日迄

病院入院中ハ海員ハ給料ヲ受クルコトヲ得ス但海員カ親屬ヲ有シ從來全部若ハ大部分海員トシテ受クル給料ニヨリ其扶養ヲ爲シタルトキハ海員ニ給料ノ四分ノ一ヲ與フルコトヲ要ス此場合ニ於テ船舶内ニ在ル者ノ給養及看護ノ爲メニ採用セラレタル海員ニ對シテハ海員ニ有利ナル場合ニ限り契約上ノ月極給料ニ代ウルニ海上災害保險法第十條ニ從ヒ帝國宰相ノ定メタル月極給料ノ平均額ニシテ食料品ノ價格ヲ算入セサルモノヲ以テス、支拂ハ直接親屬ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

海員カ船舶救護ノ際損傷ヲ蒙リタル場合ニハ爭アルトキハ海員局ノ假ニ定ムル相當ノ報酬ヲ請求スル權利ヲ有ス

第六十二條 處罰ヲ受クヘキ行爲ニ依リ疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケ又ハ第七十四條ニ基テ正當ノ理由ナクシテ勤務ヲ爲ササル海員ニ對シテハ第五十九條乃至第六十一條ノ規定ヲ適用セス  
前項ノ條件ノ存否ハ海員局假ニ之ヲ決定ス

第六十三條 海員カ疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケ之カ爲ニ陸上ニ滞留セシムルコトヲ要スル場合ニハ船長ハ滞留地ニ在ル海員局ニ海員ノ所持品及給與金ノ保管ヲ委託スルコトヲ要ス但海員カ別段ノ定メヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス、當該海員局ノ許可ヲ得テ之ヲ他ノ適當ナル場所ニ海員ヲ收容スル病院ノ保

管ニ委託スルコトヲ得、滞留地ニ海員局ナキトキ亦同シ但此ノ場合ニ於テハ船長ハ滞留地域ヲ管轄スル海員局ニ其ノ顛末ヲ届出ルコトヲ要ス

船長ハ自己及一名ノ船舶職員、船舶職員ナキトキハ一名ノ海員ノ署名アル所持品名及給與金額ヲ記載シタル目錄一通ヲ所持品ニ附ノ際之ニ添付シ且保管所ノ認證アル他ノ一通ノ目錄ヲ當該海員ニ交付スルコトヲ要ス

船長カ疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ代理人ニ於テ第一項及第二項ノ規定ニ從ヒ船長ノ所持品ニ關スル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第六十四條 海員カ勤務着手後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日ニ至ル迄其ノ受クヘカリシ給料(第八十條)ヲ支拂フコトヲ要ス但死亡カ船舶所有者ノ看護義務期間内ニ生シタルトキハ其ノ他葬式費用(第五十九條)ヲ負擔スルコトヲ要ス

船舶カ二十四時間内ニ着港スルコトヲ豫測シ得ヘキ場合ニ於テ衛生上ノ危險ナキトキハ遺骸ヲ搭載運搬シ且陸上ニ部テ其ノ葬式ヲ營ムヤウ取計フコトヲ要ス

海上ニ於ケル葬式ノ方法ハ當該海上ノ慣習ニ從フコトヲ要ス  
海員カ船舶救護ノ際死亡シタルトキハ船舶所有者ハ必要アルトキハ裁判官ノ定ムル相當ノ弔慰金ヲ支出



スルコトヲ要ス

第六十五條 船長若ハ海員カ航海中船舶内ニ於テ死亡シタルトキハ一八七五年二月六日ノ身分登記及結婚ニ關スル法律(帝國法律公報第二十三頁)第六十一條乃至第六十四條ニ從ヒ登記ヲ爲スコトヲ要ス之ニ違反シタルトキハ同法第六十八條ニ規定スル處罰ヲ受ク(註)

死亡シタル海員ノ遺産カ船舶内ニ在ルトキハ船長ハ遺産目錄ヲ調製シ鄭重ニ遺産ヲ保管シ必要アル場合ニハ遺産ヲ競賣スル様取計フコトヲ要ス、遺産目錄ハ船舶職員若ハ他ノ信用スヘキ者二名ノ立會ノ下ニ之ヲ作成スルコトヲ要ス

遺産若ハ其ノ賣得金又ハ給與金アルトキハ其ノ給與金ヲ前掲遺産目錄及死亡ニ關スル證明書ト共ニ最初ニ手續ヲ爲シタル海員局又ハ其ノ許可ヲ得テ發航港若ハ船籍港ノ海員局ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

航海中死亡シタル船長ノ遺産ニ關シテハ第二項及第三項ノ規定ニ準シ其ノ代理人之ヲ處理スルニトヲ要ス

註、前掲ノ條文ニ從ヒ船長若ハ其ノ代理人ハ船舶内ニ於テ死亡シタル者アルトキハ遅クモ死亡ノ翌日船舶職員若ハ他ノ信用スヘキ者二名ノ立會ノ下ニ推定的死因ト共ニ之ヲ航海日誌ニ記入シ且前記二名ノ證明セルニ通ノ抄本ヲ最初ニ手續ヲ爲シ得ヘキ海員局ニ送付シ且内地ノ目的港ニ到達シタル後ニ其ノ港ヲ管轄スル身分登記官吏ノ屬スル監督官廳ニ航海日誌ヲ提出スルコトヲ要ス此ノ手續ヲ爲ササルトキハ百五十馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニス

第六十六條 一航海間ノ雇入契約ヲ結ヒタル海員ハ歸航ノ終了マテ中間航海アルトキハ之ヲ包含スル全航海中服役スルコトヲ要ス但海員雇入契約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ於テ歸航ト稱スルハ船舶カ發航港ニ向フ航海ヲ云フ、船舶カ歐洲以外ノ港(第八十二條)ヨリ來リ且獨逸ノ港ヨリ其ノ航海ヲ始メタルトキハ英國、英佛海峽、北海、カテガット、ズンド、東海ノ諸港ニ向フ航海ハ之ヲ歸航ト看做ス但航海カ事實上其ノ港ニ於テ終了シ且遅クモ到着後直ニ船長ニ於テ之ヲ乗組員ニ告知シタル場合ニ限ル

歸航カ發航港ニ於テ終了セサルトキハ海員ハ發航港ヘノ無賃送還(第七十八條、第七十九條)ヲ請求シ若ハ船長ノ選擇ニ從ヒ爭アルトキハ海員局ノ假ニ定ムル相當ノ賠償ヲ請求スル權利ヲ有ス、其他海員ハ其ノ時迄ニ受ケヘキ給料ノ外送還終了期(第七十三條)マテノ給料ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 期間ヲ定メテ雇入契約ヲ結ヒタル海員ハ特約ナキトキハ其ノ期間ノ經過スル迄服役スルノ義務ヲ負フ

雇傭期間カ航海中ニ終了シタルトキハ他ノ特約ナキ場合ニ限リ海員ハ船舶カ陸揚、荷積ノ爲メニ寄港シタル最初ノ港ニ於テ解雇ヲ請求スルコトヲ得

船長カ其ノ港ニ於テ補充海員ヲ得ルコト能ハサルコトヲ海員局又ハ海員局ナキトキハ其ノ地ノ地方官廳



ニ於テ認證シタルトキハ海員ハ給料四分ノ一ノ増額ヲ受ケ補充海員ヲ得ヘキ港ニ至ル迄三ヶ月ヲ超エサル範圍ニ於テ服役ヲ繼續スル義務ヲ負フ、海員カ獨逸ノ港ニ於テ雇入レラタルモノナラルトキハ其要求ニ基キ從前ノ條件ノ下ニ獨逸ノ港ニ歸航スル迄三ヶ月ヲ超エサル範圍ニ於テ雇傭關係ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六十八條 航海終了後海員ハ積荷ヲ陸揚シ船舶ヲ掃除シ港其ノ他ノ場所ニ安全ニ之ヲ定置シ且海難報告ノ必要アルトキハ之ヲ爲シタル後ニアラサレハ解雇ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十九條 海員雇入契約ハ船舶カ不可抗力ニ因リ船舶所有者ノ手ヨリ喪失シタルトキ特ニ船舶カ

一、沈没シタルトキ

二、修繕不能若ハ修繕スル價值ナキコトヲ宣告セラレタルトキ(商法第四七九條)後ノ場合ニハ遲滞ナク公賣セラレタルトキ

三、掠奪セラレタルトキ

四、拿捕若ハ抑留セラレ且正當ナル捕獲物タルコトヲ宣言セラレタルトキニ終了ス

海員ハ前項ノ場合ニ發航港ヘノ無賃送還(第七十八條、第七十九條)ヲ請求シ又ハ船長ノ選擇ニ從ヒ爭アルトキハ海員局ノ假ニ定ムル相當ノ賠償ヲ請求スル權利ヲ有ス、其ノ他海員ニハ其時迄ニ受クヘキ給料

ノ外送還終了期(第七十三條)マテノ給料ノ半額ヲ與フルコトヲ要ス

第七十條 船長ハ左ノ場合ニ於テハ雇傭期間終了前ニ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

一、海員カ契約ヲ爲シタル職務ニ不適任ナルトキ但發航前ニ限ル

二、海員カ重大ナル職務上ノ義務違背ヲ爲シタルトキ特ニ屢不從順ナルトキ、絶ヘス反抗スルトキ、勤務中屢酩酊スルトキ又ハ密輸出入ニ付責ヲ負フヘキトキ

三、海員カ窃盜罪、詐欺罪、瀆職罪、横領罪、贓物ニ關スル罪、文書偽造ノ罪又ハ死刑若ハ懲役ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキ

四、海員カ處罰ヲ受クヘキ行爲ニ依リ服役ヲ不能ナラシムル疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケタルトキ

五、海員カ船舶内ニ在ル他ノ者ニ危険ヲ及スヘキ性的ノ疾病ニ罹リタルトキ、此ノ場合ニ當ルヤ否ヤハ醫師カ得ラルヘキ限リ具ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

六、雇入レラレタル船舶カ戰爭、船舶抑留、封鎖又ハ輸出入ノ禁止其ノ他船舶若ハ積荷ニ關スル事變ノ爲航海ヲ開始若ハ繼續スルコトハ能ハサルトキ

船長ハ解雇及其ノ理由ヲ事實發生後遲滞ナク海員ニ告知シ且第一項第二號乃至第五號ノ場合ニ於テハ遲クトモ海員カ船舶ヲ去ル以前ニ航海日誌ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス、船長ハ海員ノ要求アルトキハ航海



日誌記載事項ノ謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲス

第七十一條 第七十條第一項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ海員ハ其ノ受クヘキ給料額(第八十條)以上ヲ請求スルコトヲ得ス

第五號ノ場合ニ於テハ海員ノ請求權ハ第五十九條乃至第六十一條ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ム、本項ハ獨逸帝國法律公報處載ノ布告ニ掲ケタル外國船舶内ニ於テ勤務ニ從事スル獨逸人ニ對シ其ノ國ノ法律若ハ國際條約ニ依リ之ニ相應スル保護ヲ保障セル範圍内ニ於テ外國臣民ニ之ヲ適用ス

第六號ノ場合ニ於テハ發航後ニ解雇セラレタル海員ハ第六十九條第二項ニ規定シタル請求權ヲ有ス

第七十二條 一航海ノ間雇入れラレタル海員ニシテ第七十條ニ掲ケタル以外ノ理由ニ依リ雇入期間經過前ニ解雇セラレタル者ハ手附金及前拂金ヲ受領セルトキハ之ヲ包含スル一ヶ月間ノ給料ヲ賠償トシテ請求スルコトヲ得

發航後ニ解雇セラレタル海員ハ其ノ他發航港ヘノ無賃送還(第七十八條、第七十九條)ヲ請求シ又ハ船長ノ撰擇ニ從ヒ爭アルトキハ海員局ノ假ニ定ムル相當ノ賠償ヲ請求スル權利ヲ有ス、海員ハ第一項ニ規定シタル給料及其ノ時迄ニ受クヘキ給料(第八十條)ノ外第七十三條ニ從ヒ計算スヘキ送還港ニ向フ航海ノ豫定期間ノ給料ヲ請求スルコトヲ得

第七十三條 發航後契約期間經過前ニ海員ヲ解雇シタル場合ニ於テ送還港カ獨逸ノ港ナルトキハ(第七十二條第二項)歸航ニ對シ船員ノ受クヘキ給料ノ額ヲ定ムル爲汽船ニ依ル運送ヲ基礎トシテ航海ノ期間ヲ左ノ如ク算定ス

解雇ノ場所カ

- (イ) 北海、英國、英佛海峽、東海若ハ之ニ接續スル海上ノ港ナルトキハ半ヶ月
- (ロ) 其ノ他ノ歐洲ノ港ナルトキ(第八十二條)ハ一ヶ月
- (ハ) 歐洲以外ノ港ナルトキハ(ニ)ニ掲ケタルモノヲ除キ一ヶ月半
- (ニ) 大洋若ハ濠洲ノ港ナルトキハ二ヶ月

全部若ハ一部帆船ニ依リテ送還ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ通過スヘキ距離ハ汽船ニ依ル運送時間ノ二倍ヲ要スル割合ヲ以テ計算スルコトヲ要ス

第一項イ及ロノ場合ニ於テ鐵道ノミニ依リテ送還セラレタルトキハ航海期間ハ之ヲ加算セス  
復航期間ハ前掲ノ標準ニ從ヒ外國ノ港ニ送還スル場合ニハイ乃至ロノ規定ヲ適當ニ參酌シ爭アル場合ニハ海員局假ニ之ヲ定ム

第七十四條 海員ハ左ノ場合ニ於テ雇止ヲ請求スルコトヲ得



一、船長カ海員ニ對スル重大ナル職務上ノ義務違背ヲ爲シタルトキ、特ニ海員ヲ虐待シ若ハ他ノ乗組員ノ虐待ヲ默許シタルトキ、理由ナクシテ食物及飲料ヲ與ヘサルトキ又ハ腐敗セル食物ノ給與ニ付責ヲ負フヘキトキ

二、船舶カ國籍ヲ變更シタルトキ(註)

三、往航終了後中間航海ヲ爲スコトヲ決定シタルトキ若ハ中間航海カ終了シタルトキ但勤務着手以來船舶カ歐洲ノ港(第八十二條)ニ在ルトキハ一年ヲ、歐洲以外ノ港ニ在ルトキハ一年半ヲ經過シタルコトヲ要ス

四、船舶カ雇入公認ノ際「ベスト」、「コレラ」若ハ黃熱病ノ流行セル港ヲ最後到着港ト爲シ又ハ之ニ寄港スヘキトキ但雇入公認ノ際當該港名及傳染病流行ノ事實ヲ海員ニ告知シタルトキハ此ノ限ニ在ラス、此ノ場合ニ於テ傳染病流行セル港ト稱スルハ「ベスト」、「コレラ」若ハ黃熱病ノ存在スル港ヲ謂フ、雇止ノ請求權ハ傳染病屏息スルト同時ニ消滅ス

五、海員カ機關士、運轉士若ハ船長ノ試験ヲ準備シ又ハ自己ヲ指示シテ申込ミ來レル船長ノ職ニ就カント欲スルトキ但シ此ノ場合ニ於テハ適當ナル代人ヲ推薦シ且交迭ニ依リテ船舶ノ航海ニ支障ヲ來ササル場合ニ限ル推薦セラレタル代人ノ適否ニ付爭アルトキハ最初ニ寄港スル港ノ海員局之ヲ定

海員ハ船舶所有者若ハ船長ノ交迭ヲ理由トシテ雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

註、國旗ニシテ商業旗ニ非ス、

第七十五條 第七十四條第三號ノ場合ニ於テ次ノ條件アルトキハ雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

一、海員カ當該規定ニ示シタル期間ヲ超ユル雇入契約ヲ結ヒタルトキ但不定期間ノ航海若ハ往航終了後更ニ決定セララルヘキ凡テノ航海ニ對シ勤務ヲ繼續スルコトヲ内容トスル約款アル雇入契約ハ之ヲ斯クノ如キ期間ノ雇入契約ト看做サス

二、歸航ノ準備整ヒタルトキ

第七十六條 海員ハ第七十四條第一號及第二號ノ場合ニ於テ第七十二條ノ場合ニ定メタル請求權ト同一ノ請求權ヲ有ス

第七十四條第三號乃至第五號ノ場合ニ於テ海員ハ其ノ時迄ニ受クヘキ給料額以上ヲ請求スルコトヲ得ス船員カ同條第四號ノ場合ニ於テ七十二條ノ請求權ヲ有スルハ船籍港ニ於ケル雇入公認ニ付テハ船舶所有者、其ノ代理人(第十二條第二項)若ハ船長其ノ他ノ港ニ於ケル雇入公認ニ付テハ船長カ傳染病流行ノ事實ヲ認知シタル場合ニ限ル



第七十七條 外國ニ於テ雇止ヲ請求シタル海員ハ國籍變更ノ場合ヲ除クノ外海員局ノ假決定(第二百二十九條)ニ基クニ非サレハ船長ノ意思ニ反シテ勤務ヲ去ルコトヲ得ス

第七十八條 本法ノ規定ニ從ヒ成立シタル無賃送還請求權ハ航海中ノ扶持並ニ海員所持品ノ運搬請求權ヲ包含ス、船舶職員ハ客室ニ於テ送還及扶持ヲ受クルノ權利ヲ有ス

送還ノ方法ニ關シ爭アルトキハ雇止公認ヲ爲シタル海員局之ヲ決定ス

第七十九條 勞働能力アル海員ニ對シ海員局ノ許可ヲ得テ送還港若ハ之ニ近キ港ニ赴ク獨逸商船内ニ於ケル以前ノ地位及給料ニ相當スル勤務ヲ指示シタルトキハ無賃送還請求權及送還期間内給料繼續請求權ハ満足セラレタルモノトス、後ノ場合ニ於テハ海員ハ送還港迄ノ無賃送還ノ場合ニ於ケル費用(第七十八條)額ニ相當スル金額ヲ請求スル權利ヲ有ス

送還セラルヘキ海員カ獨逸人ニ非サルトキハ其ノ本國船舶ヲ獨逸船舶ト看做ス

第八十條 第四十五條、第五十三條、第六十一條、第六十四條、第六十九條、第七十一條、第七十二條及第七十六條ノ場合ニ於テ給料ヲ定ムルニ時間ニヨラス一航海ヲ標準トシタルトキハ其ノ受クヘキ給料額ハ服役シタル勞務及經過シタル航海里程ノ全給料額ニ對スル割合ニ應シ之ヲ定ム、第七十二條及第七十三條ニ掲ケタル各月ノ給料ヲ算出スルニ當リテハ積荷及陸揚期間ヲ含ム航海ノ平均繼續期間ヲ計算シ且船舶ノ

船種ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

日ヲ以テ給料ヲ計算スルトキニハ一ヶ月ハ之ヲ三十日トス

第八十一條 賞與トシテ海員ニ與フル運賃若ハ收益ノ一部分ハ本法ニ所謂給料ト看做サス

第八十二條 第六十六條、第七十三條及第七十四條ノ場合ニ於テハ歐羅巴ニ屬セサル地中海及黑海ノ港ハ之ヲ歐羅巴ノ港ト看做ス

第八十三條 船長ハ帝國領域以外ニ於テハ海員局ノ許可ナクシテ海員ヲ解雇スルコトヲ得ス、海員ヲ解雇シタル場合ニ船員カ扶助ヲ要スルトキハ海員局ハ船長カ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ扶助ヲ受ケシムルコトヲ擔保シタル場合ニ限り解雇ノ許可ヲ與フルコトヲ得

海員カ解雇ヲ承諾シ且其ノ地ニ海員局ナキ場合ニ於テ他ノ海員局ノ許可ヲ得ルカ爲ニ航海ノ遲延ヲ來スヘキトキハ船長ハ許可ナクシテ解雇スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テ海員ノ扶助ヲ要スルトキハ船舶所有者ハ爾後三ヶ月間之ニヨリ生スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

本條ノ規定ハ第二百二十七條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第四章 懲戒規定

第八十四條 海員ハ船長ノ懲戒權ニ服從ス、船長ノ懲戒權ノ行使ハ一等運轉士及一等機關士ニ限リ其ノ分



掌勤務ノ範圍内ニ於テ之ヲ委任スルコトヲ得

前項ノ委任ヲ受ケタル者カ懲戒權ヲ行使シタルトキハ二十四時間内ニ之ヲ船長ニ届出ツルコトヲ要ス

第八十五條 海員ハ常ニ節制ヲ重シ且何人ニ對シテモ閑雅ニシテ温順ナル態度ヲ持スルコトヲ要ス

海員ハ船長、船舶職員其ノ他ノ上長ニ對スルニ敬意ヲ以テシ且其ノ職務上ノ命令ハ遲滯ナク之ヲ遵行スルコトヲ要ス

第八十六條 海員ハ船長ノ要求アルトキハ職務上自己ノ知り得タル事實ヲ偽ナク且完全ニ報告スルコトヲ要ス

第八十七條 海員ハ船長ノ許可ナクシテ貨物ヲ船舶内ニ持込ミ若ハ持込マシムルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ自己若ハ他人ノ貨物ヲ運送シタル海員ハ當該航路ニ於ケル同種ノ貨物中陸揚ノ場所及時期ニ於テ最高ノ運賃ヲ支拂フコトヲ要ス但運賃額以上ノ損害カ證明セラレタル場合ニ於ケル賠償義務ハ之ニヨリテ妨ケラルルコトナシ

船長ハ斯ノ如キ貨物ヲ船舶内ニ留置スルトキハ船舶、積荷若ハ船舶内ニ在ル者ノ健康ニ危害ヲ及ホシ又ハ官廳ノ干渉ヲ惹起スルノ虞アル場合ニ於テハ之ヲ船外ニ投棄スルコトヲ得

第八十八條 第八十七條ノ規定ハ海員カ船長ノ許可ナクシテ武器、彈藥、火酒其ノ他ノ酒精飲料又ハ當該航

海中自己ノ使用ニ必要ナル以上ノ煙草及煙草附屬品ヲ船舶内ニ持込ミ若ハ持込マシメタル場合ニ之ヲ適用ス

前項ノ禁止ヲ犯シテ持込ミタル物品ハ船舶ニ歸屬ス

第八十九條 船長ハ遲滯ナク第八十七條及第八十八條ニ基キ爲シタル命令ヲ航海日誌ニ記載スルコトヲ要ス

第九十條 船舶カ港内若ハ繫留場ニ碇泊セル場合ニ於テ四圍ノ情況ニ依リ海員脫船ノ虞アリト認メタルトキハ船長ハ船舶發航迄海員ノ所持品ヲ保管スルコトヲ得

第九十一條 秩序ヲ維持シ職務上ノ規律ヲ確保スル爲船長ハ適宜ノ處分ヲ爲ス權能ヲ有ス、船長ハ此ノ目的ノ爲ニ罰金、三日以上ニ亘ル減食、監禁、體刑ヲ懲罰トシテ科シ若ハ強制手段トシテ適用スルコトヲ得ス(註)

反抗若ハ頑強ナル不從順ニ際シテハ船長ハ其ノ命令ニ服從セシムルニ必要ナル凡テノ手段ヲ用フルコトヲ得、此ノ目的ノ爲メニ船長ハ各場合ニ應シ必要ナル程度ニ於テ腕力ヲ使用スルコトヲ得、其ノ他船長ハ關係者ニ對シ適當ナル保安處分ヲ爲シ且必要アル場合ニハ航海中其ノ身體ノ自由ヲ拘束スルコトヲ得、各海員ハ船長ノ要求ニ從ヒ秩序ヲ維持、反抗防衛若ハ鎮壓ノ爲船長ヲ補佐スルコトヲ要ス



外國ニ於ケル急迫ノ場合ニハ船長ハ最寄帝國海軍艦船ノ司令官ニ對シ紀律維持ノ爲援助ヲ求ムルコトヲ得

註、之ニ依リ船長ハ船舶給仕ニ對シ親權者ノ有スルト同一ノ懲戒權ヲ行フコトヲ得ス

第九十二條 船長ハ第九十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル凡テノ處分ヲ遲滯ナク其ノ原因ヲ具シテ航海日誌ニ記載スルコトヲ要ス

第五章 刑罰規定

第九十三條 海員雇入契約締結後勤務着手ヲ免レンカ爲ニ潛匿シタル海員ハ六十馬克以下ノ罰金ニ處ス

海員カ勤務ノ繼續ヲ免レンカ爲メニ脫船若ハ潛匿シタルトキハ三百馬克以下ノ罰金若ハ三ヶ月以下ノ禁錮ニ處ス

給料ヲ受取リタル後擔當シタル勤務ヲ免レンカ爲ニ脫船若ハ潛匿シタル海員ハ之ヲ刑法第二百九十八條ニ定メタル一年以下ノ禁錮ニ處ス、情狀酌量スヘキモノアルトキハ三百馬克以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第一項及第二項ノ場合ニ於テハ船長ノ告訴アリタル場合ニ限り之ヲ訴追ス、告訴ハ之ヲ取下クルコトヲ得

第九十四條 第九十三條第二項及第三項ノ場合ニ於テ海員カ發航前勤務繼續ノ爲任意ニ歸船シ若ハ強制的

ニ歸船セシメラルルニ非サレハ其ノ時迄ニ受クヘキ給料ヲ請求スル權利ヲ失フ、船舶處有者ハ海員雇入契約及雇傭契約ヨリ生シタル損害賠償請求權ニ充當スル爲給料及給料不足ナルトキハ船舶ニ遺留シタル海員ノ所持品ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲ニ給料ヲ處分スル必要ナキトキハ第三百三十二條ニ規定スル手續ヲ爲スコトヲ要ス脫船ノ届出ヲ爲シタル海員局(第二十五條)ニ對シ損害賠償請求金額及雇傭契約ニ基ク海員ノ處得額ニ關スル調書ヲ遲滯ナク交付スルニアラサレハ前項ノ權利ヲ失フ

第九十五條 海員カ外國ニ於テ第七十四條第一號、第三號、第四號及第五號ノ場合ニ於テ第七十七條ノ規定ニ違反シ勤務ヲ離脱シタルトキ一ヶ月ノ給料額以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 海員カ職務上ノ義務ニ著シク違背シタルトキ一ヶ月ノ給料額以下ノ罰金ニ處ス

違反行爲重大ナル場合ニ於テ特ニ職務上ノ義務違背ト看做シ第一項ニ依リ處罰セラル、モノ左ノ如シ

- 一、當直勤務中ニ於テ職務ニ懈怠シタルトキ
- 二、上長ノ職務上ノ命令ニ服從セサルトキ
- 三、上長、他ノ船舶乗組員若ハ旅客ニ對スル態度其ノ當ヲ得サルトキ
- 四、許可ナクシテ上陸シ若ハ規定ノ時間内ニ歸船セサルトキ



五、許可ナクシテ自己若ハ他人ノ所持品ヲ船外ニ持出シ又ハ貨物其ノ他ノ物品ヲ船内ニ持込ミ若ハ持込マシメタルトキ

六、漫ニ乗組員以外ノ者ヲ乗船セシメ又ハ小舟ヲ其ノ船舶ニ繋クコトヲ許容シタルトキ

七、勤務中酩酊シタルトキ

八、食糧ヲ浪費シ、權限ナクシテ之ヲ讓與シ若ハ他ニ持去リタルトキ

船舶職員ニ對シテハ前項ノ刑罰ハ二ヶ月分ノ給料額迄加重スルコトヲ得

訴追ハ船長若ハ侵害セラレタル海員ノ告訴ヲ俟テ之ヲ行フ、告訴ハ雇止ノ公認アル迄之ヲ爲スコトヲ得

告訴ノ取下ハ判決確定迄之ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 第九十五條及第九十六條ノ場合ニ於テ給料カ月極メナラサルトキハ一ヶ月分ノ給料ニ相當スル罰金額ハ海員局ノ裁量ニ依リテ之ヲ定ム

第九十八條 船長ハ重大ナル勤務義務ノ違背アリタルトキハ遲滯ナク詳細ニ其ノ事實ヲ航海日誌ニ記載シ且記載事項ノ内容ニ付第九十六條ノ刑罰規定ヲ明示シテ海員ニ告知シ且請求ニ基キ記載事項ノ謄本ヲ海員ニ交付スルコトヲ要ス

海員ニ對スル告知ヲ爲ササリシトキハ其ノ理由ヲ航海日誌ニ記載スルコトヲ要ス記載ヲ怠リタルトキハ

訴追ヲ爲スコトヲ得ス、但第九十六條第二項第三號ノ場合ニ於テ侵害セラレタル海員カ之ニ付告訴ヲ提起シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 海員カ上長其ノ他ノ乗組員ノ不當ナル行爲、雇入公認ヲ爲シタル船舶ノ不適航若ハ乗組員ノ需要ノ爲メニ積込ミタル食物及飲料ノ不充分若ハ腐敗ニ付異議ヲ申立テタルトキハ船長ハ詳細ノ事情ヲ具シ其ノ異議ヲ航海日誌ニ記載シ且請求アルトキハ異議提出者ニ記載事項ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第一百條 屢々船長、船舶職員其ノ他ノ上長ノ適法ナル命令ニ從フコトヲ拒ミタル海員ハ三ヶ月以下ノ禁錮若ハ三百馬克以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 二名又ハ二名以上ノ乗組員共謀(且共同)シテ船長、船舶職員其ノ他ノ上長ノ適法ナル命令ニ從フコトヲ拒ミタルトキハ之ニ參與シタル者ヲ一年以下ノ禁錮ニ處シ首魁ヲ三ヶ年以下ノ禁錮ニ處ス

情狀酌量スヘキモノアルトキハ六百馬克以下ノ罰金ニ處シ首魁ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百二條 二名又ハ二名以上ノ乗組員ニ對シ第一百一條及第一百五條ニ依リ處罰セラルヘキ行爲ノ實行ヲ煽動シタル海員ハ其ノ煽動ニ依リ處罰セラルヘキ行爲ノ既遂若ハ未遂ヲ發生シタル場合ニ於テ教唆者ト同一ノ刑罰ニ處ス

煽動カ無効ニ終リタルトキハ第一百一條ノ場合ニ於テハ三百馬克以下ノ罰金、第一百五條ノ場合ニ於テハ六



百馬克以下ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百三條 船長、船舶職員其ノ他ノ上長ヲ暴力若ハ暴力ニ訴フヘシトノ脅迫ニ依リ又ハ服役ノ拒絕ニ依リ職務上ノ行爲ヲ爲シ若ハ爲サ、ラシメタル海員ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス、情狀酌量スヘキモノアルトキハ六百馬克以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得、未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百四條 前條ノ規定(第三百三條)ハ船長、船舶職員其ノ他ノ上長ニ對シ暴力若ハ暴力ニ訴フヘシトノ脅迫ニ依リ職務上ノ權限ノ行使ニ反抗シ又ハ船長、船舶職員其ノ他ノ上長ニ暴行ヲ加ヘタル海員ニ之ヲ適用ス

第三百五條 多數ノ海員共謀(且共同)シテ第三百三條及第三百四條ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタルトキハ刑罰ハ法定刑ノ最長期ノ二倍マテ加重スルコトヲ得

首魁及船長、船舶職員其ノ他ノ上長ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス、懲役ニ處シタルトキハ其ノ外警察監視ノ宣告ヲ爲スコトヲ得、情狀酌量スヘキモノアルトキハ三ヶ月以上ノ禁錮ニ處ス

第三百六條 第三百三條及第三百四條ニ掲ケタル行爲ノ防衛若ハ鎮壓ニ關スル船長、船舶職員其ノ他ノ上長ノ命令ニ服從セサル海員ハ六ヶ月以下ノ禁錮若ハ三百馬克以下ノ罰金ニ處ス

第三百七條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタル海員ハ六十馬克以下ノ罰金若ハ十四日以下ノ拘留ニ處ス

- 一、船員手帖ノ交付、船員手帖ノ記載又ハ公認事務ニ關シ海員局ヲ欺罔スルノ目的ヲ以テ事實ヲ偽リ若ハ隱蔽シ又ハ虛構ノ事實ヲ捏造シタルトキ
- 二、第十二條ニ從テ公認ヲ受クルコトヲ怠リタルトキ
- 三、勤務著手ヲ妨クル事由アル場合ニ於テ第十七條ニ從ヒ此ノ事實ニ關シ海員局ニ届出ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 四、自己ノ知レル事實ニ反スル不實ノ主張ニ基キ第九十九條ノ異議ノ申立ヲ船長ニ提起シタルトキ
- 五、海員局ノ假決定(第二百二十九條第三項)ニ違反スル行爲ヲ爲シタルトキ

刑法第二百七十一條ノ規定ハ本條第一項第一號ニ依リテ其ノ適用ヲ妨ケラル、コトナシ(註)

註、(第百〇七條)

刑法第二百七十一條ニ曰ク

法律若ハ法律關係ニ重要ナル關係アル意思表示、手續若クハ事實カ本來爲サレ若ハ發生セス又ハ他ノ方法、資格ヲ有セサル者若ハ他ノ者ニ依リ爲サレ若ハ發生シタルニ拘ハラス公文書、帳簿、若ハ登記簿ニ於テ之ニ反シテ爲サレ若ハ發生シタルモノトシテ故意ニ登記セシメタル者ハ六ヶ月以下ノ禁錮若ハ三百馬克以下ノ罰金ニ處ス

第三百八條 自己ノ知レル事實ニ反スル不實ノ主張ニ基キ船舶ノ不適航若ハ食糧ノ不充分ニ關スル異議ノ申



立テ海員局ニ提起(第五十八條)シ且之ニ依リ審問ヲ爲サシメタル者ハ三ヶ月以下ノ禁錮若ハ三百馬克以下ノ罰金ニ處ス

輕々シク船舶ノ不適航又ハ食糧ノ不充分ニ關シ不實ノ主張ニ基ク異議ノ申立ヲ海員局ニ提起シ且之ニ依リ審問ヲ爲サシメタル者ハ百馬克以下ノ罰金ニ處ス

第九條 故意且違法ニ船體、機關、索具、艤裝品又ハ人命救助設備ノ一部ヲ破壞若ハ毀損シタル海員ハ一千馬克以下ノ罰金若ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
訴追ハ告訴ヲ俟テ之ヲ爲ス

第十條 本章若ハ他ノ刑罰法規ニ定メタル刑ハ犯人カ有責行爲ニ基キ既ニ懲戒ヲ受ケタルトキト雖之ヲ科スルコトヲ妨ケス但シ懲戒罰ハ海員局ノ處罰ノ決定(第二百二十三條)及裁判所ノ有罪判決ニ於ケル刑ノ量定ヲ爲スニ當リ參酌スルコトヲ要ス

第十一條 海員ニ對シ懲戒權ヲ濫用シタル船長、船舶職員其ノ他ノ上長ハ一千馬克以下ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第十二條 船長カ發航前若ハ航海中故意ニ船舶ニ必要ナル食糧準備ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ禁錮ニ

處ス、一千五百馬克以下ノ罰金及公民權喪失ノ宣告ヲ併科スルコトヲ得

過失ニヨリテ前項ノ準備ヲ爲サ、リシトキハ之カ爲船舶乗組員ニ相當ノ食糧ヲ與フルコト能ハサリシ場合ニ限リ五百馬克以下ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第十三條 船長左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三百馬克以下ノ罰金又ハ三ヶ月以下ノ拘留若ハ禁錮ニ處ス  
一、第五十六條第二項ニ基キ聯邦參議院ノ發シタル規則ニ依リ船長ニ課シタル義務ニ違反シタルトキ

一、第四條ニ基キ聯邦參議院ノ發シタル船舶士官ノ乗組ニ關スル規則ニ依リ船長ニ課シタル義務ニ違反シタルトキ

三、海員ニ對シ正當ノ理由ナクシテ食物及飲料ヲ給與セス若ハ止ムヲ得サルニ非ラスシテ腐敗セル食糧ヲ給與シタルトキ

第十四條 船長カ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ百五十馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス  
一、揭示(第三條第四項)ニ依リテ海員ニ勤務上ノ上長ヲ告知セシムルコトヲ怠リタルトキ

二、海員雇入ノ際之ニ法定ノ海員雇入契約書(第二十七條)ヲ交付スルコトヲ怠リタルトキ

三、海員雇入ノ公認ニ關スル義務ヲ履行セス若ハ航海中海員名簿ヲ船舶内ニ備付ケシムルコトヲ怠リ



タルトキ

四八

- 四、海員雇入ノ公認若ハ船員手帖記入ノ手續ニ關シ海員局ヲ欺罔スル目的ヲ以テ事實ヲ偽リ若ハ隱蔽シ又ハ虛構ノ事實ヲ捏造シタルトキ
- 五、重大ナル理由ナクシテ第三十四條第三項ノ規定ニ違反シ海員ニ對シ上陸ノ許可ヲ拒絕シタルトキ但海員カ許可ヲ拒絕セラレタル後三日以内ニ海員局ニ出訴シタルトキニ限り之ヲ處罰ス
- 六、第三十七條第二項、第四項及第三十八條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 七、給料若ハ前拂金ノ支拂ニ關スル第四十六條及第四十八條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 八、第四十九條ニ規定シタル義務ノ履行ニ關シ注意ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 九、第五十條ノ規定ニ違反シ人員ヲ補充セザリシトキ
- 十、船長ノ義務ニ屬スル船員手帖(第十七條)疾病ニ罹リタル海員所持品、海員雇入契約ニ基ク處得又ハ死亡船員ノ遺産ノ處理ヲ怠リタルトキ(第六十三條、第六十五條)
- 十一、第六十四條第二項及第三項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 十二、第七十條、第八十九條、第九十二條及第九十九條ニ規定シタル航海日誌ノ記入ヲ怠リタルトキ
- 十三、犯罪アリタル場合ニ於テ第二百二十六條、第二百二十七條ニ基ク義務ヲ履行セザリシトキ

十四、急迫ノ理由ナクシテ海員ニ海員局ノ決定ヲ受クル(第二百二十九條、第三百十條)ノ機會ヲ與ヘザリシトキ

十五、刑事裁決執行ノ爲海員局ノ發シタル命令(第二百五條第三項)ニ從ハス若ハ海員局ノ假決定(第二百二十九條第三項)ニ違反シタルトキ

十六、第三百三十三條ニ規定シタル複本ヲ船員居室内ニ備付ケシムルコトヲ怠リタルトキ

刑法第二百七十一條ノ規定ハ本條第一項第四號ノ規定ニ依リテ其ノ適用ヲ妨ケラル、コトナシ(註)

註、第百〇七條ノ註參照

第百十五條 海員局ニ對シテ不當ノ行爲ヲ爲シタル船長若ハ海員ハ十馬克以下ノ罰金若ハ一日ノ拘留ニ處ス

第百十六條 第八十四條ニ規定シタル懲戒權ノ行使ニ關スル通知ヲ二十四時間内ニ船長ニ爲スコトヲ怠リタル船船職員ハ百五十馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス

第百十七條 船舶所有者若ハ其ノ代理人トシテ故意ニ第五十六條第二項ニ基キ聯邦參議院ノ發シタル規則ニ違反シ又ハ船長ヲシテ船舶ノ充分ナル食糧準備若ハ法定ノ藥劑ノ備付ヲ爲サシムルコトヲ得サラシメタル者ハ一千馬克以下ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス但後ノ場合ニ對シ他ノ法規ニ於テ重キ刑ヲ科シ



タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ掲ケタル資格ニ於テ故意ニ第四條ニ基キ聯邦參議院ノ發シタル船長及船舶士官乗組ニ關スル規則ニ違反シタル者亦同シ

第一百十八條 船舶所有者若ハ其ノ代理人トシテ其ノ命令ヲ以テ第三十七條第二項、第四項及日曜休息ニ關スル第三十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス

第一百十九條 船舶所有者若ハ其ノ代理人トシテ海員雇入ノ際海員ニ法定ノ海員雇入契約書ヲ交付スルコトヲ怠リタル者ハ百五十馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス

第一百二十條 第一百七條乃至第一百十九條ニ於テ船舶所有者ト稱スルハ株式會社ノ理事員其ノ他ノ理事ノ一人ニ依リ代表セラル、商事會社、登記シタル組合及海運業ヲ營ム法人ヲ包含ス

第一百二十一條 第九十三條乃至第一百十九條ニ掲ケタル處罰ヲ受クヘキ行爲ニ基クテ訴追ハ犯罪行爲カ帝國外ニ行ハレタル場合ニモ之ヲ行フ

刑事訴追ノ消滅時效ハ(此場合ニ於テハ)行爲ノ當時犯人ノ屬シタル船舶カ最初ニ海員局ニ到着シタル日ヨリ進行ス

訴追ハ犯人カ外國人ナルカ爲ニ妨ケラル、コトナシ

第一百二十二條 第九十三條第一項、第二項、第九十五條、第九十六條、第一百七條、第一百十四條乃至第一百十六條、

第一百十八條、第一百十九條ノ場合ニ於テハ審問、裁決及決定ハ海員局之ヲ行フ但第九十三條第二項ノ場合ニ於テハ海員局カ帝國領域外ニ所在地ヲ有シ第一百十八條及第一百十九條ノ場合ニ於テハ内地ニ所在地ヲ有スル場合ニ限ル

第一百二十三條 海員局ハ責任ヲ以テ被告ヲ訊問シ速ニ事實ヲ確定スルコトヲ要ス、證人ハ之ヲ宣誓セシムルコトヲ得ス審問終決後理由ヲ付シタル裁決ヲ爲スコトヲ要ス、裁決ハ之ヲ言渡シ且被告闕席ノ場合ニハ其ノ正本ヲ送達スルコトヲ要ス、刑ヲ科シタルトキハ無資産ノ場合ニ罰金刑ニ代ルヘキ自由刑ノ刑期ヲ定ムルコトヲ要ス、裁決ハ消滅時效ノ中斷ニ關シテハ裁判所ノ行爲ト同一ノ效力ヲ有ス(註一)

海員局ニテ爲ス手續ハ手數料ヲ要セス  
公開ニ關スル裁判所構成法第七十條、第七十三條乃至第七十六條ノ規定ハ内地ニ於ケル海員局ノ執行スル手續ニ之ヲ準用ス(註二)

海員局ニテ爲ス其ノ他ノ手續ハ聯邦參議院ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム(註三)、此ノ命令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シテ之ヲ告知スルコトヲ要ス

註一、裁判上ノ行爲ハ消滅時效ヲ中斷ス



註二、此處ニ掲ケタル條文ハ裁判ノ言渡ハ必之ヲ公開スルコトヲ定メタル規定ノ外ニ唯外部的形式的ノ規定ヲ包含ス  
註三、船員及準船員ノ兵役關係及其ノ海員トシテノ公認ニ關スル規則集參照

第二百二十四條 被告ハ海員局ノ裁決ニ對シ其ノ言渡若ハ送達ノ日ヨリ十日以内ニ裁判所ノ判決ヲ請求スルコトヲ得、此ノ申立ハ記録若ハ書面ヲ以テ海員局ニ提出スルコトヲ要ス、海員局ハ申立人ノ請求ニ基キ申立ニ關スル認證ヲ與フルコトヲ要ス

船舶カ前項ノ期間經過前ニ發港スル場合ニ於テハ海員ハ記録若ハ書面ヲ以テ期間内ニ船長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得、海員ノ要求アルトキハ異議ノ申立ニ關スル認證ヲ交付スルコトヲ要ス、船長ハ遲滯ナク航海日誌ニ異議ノ申立ヲ記載シ且申立書ヲ海員局ニ送付スルコトヲ要ス、消滅時效ハ異議ノ申立アリタルトキヨリ海員局ニ於テ申立ヲ受理シタルトキ迄其ノ進行ヲ停止ス

海員局カ内地ニ在ル場合ニ於テハ爾後ノ手續中土地管轄ニ關シテハ其ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ管轄屬シ海員局カ外國ニ在ル場合ニ於テハ内地ノ船籍港、船籍港ナキトキハ船舶登記港ヲ管轄スル裁判所ノ管轄ニ屬ス

前項ノ規定ニ依リ管轄權アル獨逸裁判所ナキトキハ帝國裁判所之ヲ指定ス

第二百二十五條 海員局ノ裁決ハ罰金ノ取立ニ限り假ニ之ヲ執行スルコトヲ得

内地ニ於ケル海員局ノ刑事裁決ハ聯邦法律ヲ以テ定メタル官廳之ヲ執行ス、外國ニ於ケル海員局ノ言渡シタル刑事裁決ハ其ノ海員局ニ於テ無料ニテ之ヲ執行ス、船長ハ罰金ノ取立ニ關スル海員局ノ命令ニ從フコトヲ要ス

差押ヲ禁止スル有體物及債權ニ關スル民事訴訟法第八百一十一條第八百五十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(註)

第二項ニ掲ケタル内地ノ執行官廳ハ囑託ニ基キ管轄區域外ノ海員局ノ發シタル刑事裁決ヲ其ノ管轄内ニ在住スル者ニ對シ執行スルコトヲ要ス

囑託ヲ受ケタル事項ノ執行ニ關シテハ千八百九十五年六月九日ノ租稅徵收及財産刑執行ノ補助ニ關スル法律(帝國法律公報第二五六頁)ノ規定ヲ準用ス

註、此處ニ掲ケタル條文ニ依レハ官吏公吏ニアラサル私人ニ於テ差押フルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一、賃銀給料(一八六九年六月二十一日ノ法律)
- 二、法律ノ規定ニ基ク扶養請求權及民法第八百四十四條ニ從ヒ斯ル請求權ヲ喪フヘキ者ニ對シ支拂フ可キ年金
- 三、債務者カ自己、妻及自己ノ監督セサル子ノ扶養ノ爲必要ナル慈善財團其ノ他ヨリ受ケル繼續ノ收入
- 四、病者救護金庫、救助金庫、死亡者金庫等ヨク受ケル扶助金
- 五、寡婦孤兒ノ扶助料並ニ病傷勞働者ノ扶助金



六、婚姻ノ指環、勳章及賞牌

第二百二十六條 船舶カ海上若ハ外國ニ在ル場合ニ於テ船員カ犯罪(重罪若ハ輕罪)ヲ犯シタルトキハ船長ハ船舶職員其ノ他ノ信用ス可キ者ノ立會ノ下ニ犯罪行爲ノ證據及處罰ニ影響アリト認ムル凡テノ事項ヲ記録スルコトヲ要ス、特ニ殺人若ハ重傷害ノ場合ニハ負傷ノ狀態ヲ詳ニ記載シ且負傷者カ負傷後生存シタルトキハ其ノ期間内加療ノ有無及又攝取シタル食物ノ種類ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百二十七條 船長ハ何時ニデモ犯罪行爲ニ關係ヲ有スル疑アル海員ノ所持品ヲ搜索スルコトヲ得

船長ハ第七十條第三號、第九十三條第二項及第三項ニ掲ケタル犯罪行爲ヲ行ヒタル海員ヲ捕縛スルコトヲ得

第七十條第三號ノ場合ニ於テ殺人犯人カ脱船スル虞アルトキハ前項ノ捕縛ヲナス義務ヲ負フ、第九十三條第二項、第三項ノ場合ニ於テ船舶カ大洋ニ在ル限リ監禁ヲ爲スコトヲ得ス

最初ニ到着スル海員局ニ犯罪行爲ヲ通知シ犯人ハ之ヲ引渡スコトヲ要ス、外國ニ於テ海員局カ特別ノ理由ニヨリ犯人ノ受領ヲ拒ミタルトキハ次に到着スル海員局ニ引渡ヲ爲スコトヲ要ス  
急迫ナル場合外國ニ於テ適當ナル時期ニ海員局ニ到着スルコト能ハサルトキハ管轄權アル獨逸官廳ヘノ護送ヲ依囑スルカ爲メニ外國官廳ニ犯人ヲ引渡スコトヲ得

前項ノ處分ニ關シテハ船長ハ最初ニ到着スル海員局ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

註、第七十條第三號ハ竊盜、詐偽、文書偽造其ノ他、第九十三條第二項、第三項ハ勤務義務脫離ノ制裁

第六章 一般規定

第二百二十八條 海員局ハ通知ヲ受ケタル船長海員間ノ紛議ヲ調停スル義務ヲ負フ、特ニ海員ノ雇止公認ヲ爲シタル海員局ハ調停ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十九條 海員ハ船長カ内國ニ於テ裁判籍ヲ有スル場合ニ於テハ外國裁判所ニ刑事及民事事件ニ付之ヲ訴アルコトヲ得ス、此ノ規定ニ違反シタル海員ハ之ニヨリテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要シ且其ノ時迄ニ受クヘキ給料ヲ失フ

海員ハ遅延ヲ許ササル場合ニハ海員局ノ假決定ヲ求ムルコトヲ得、海員カ假決定ヲ求メムトスルトキハ船長ハ急迫ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス、船長ハ海員ト同一ノ條件ノ下ニ海員局ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

各當事者ハ管轄官廳ニ對シテ權利ヲ主張スル權能ヲ留保シ一時假ニ管轄官廳ノ決定ニ從フコトヲ要ス  
第一項ノ規定ハ船舶ノ強制賣却ノ場合ニ於ケル海員雇入契約ニヨリ生シタル海員ノ債權ノ行使ニハ之ヲ適用セス



第三百三十條 内國ニ於テ雇入公認後勤務ノ著手若ハ繼續ニ關シ生シタル船長海員間ノ争ハ裁判訴訟手續ニ  
ヨル權利ノ主張ヲ留保シ船舶ノ碇泊スル地域ヲ管轄スル海員局ニ於テ之ヲ決定ス

第三百三十一條 第二百二十九條及第三百三十條ニ從ヒテ爲シタル海員局ノ決定ハ假執行ヲ宣言セル判決ト同一  
ノ效力ヲ有ス、執行文ノ付與ハ之ヲ必要トセス、管轄官廳ノ處分ヲ請求シ若ハ訴訟手續ヲ開始シタルト  
キハ民事訴訟法第七百七條ノ規定ヲ準用ス(註)

註、之ニ後リ裁判所ハ擔保ヲ提供シタル場合ニ限り強制執行ヲ許スコトヲ得

第三百三十二條 第五章ノ規定ニ依リ定メ若ハ認メタル罰金ハ海員金庫ニ歸屬シ海員金庫ナキトキハ犯罪ノ  
當時犯人ノ屬シタル船舶ノ内地ニ於ケル船籍港ニ存在スル地方貧民金庫ニ歸屬ス但聯邦法律ニ依リ他ノ  
類似ノ使途ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス、内地ニ船籍港ナキトキハ内地ノ登録港ヲ以テ之ニ代ユ、  
船籍港、登録港共ニナキトキハ帝國宰相之ヲ定ム

第三百三十三條 本法、食糧及居室ニ關シ船舶ニ適用スヘキ規則ノ複本(第五十六條)、海員及準海員(第七條)  
ノ兵役關係ニ關スル規則ニシテ官廳ノ編纂ニ係ルモノノ複本竝凡テノ附隨規定ヲ合シテ海員名簿ニ集録  
セラルヘキ海員雇入契約ニ關スル規則ノ複本ハ常ニ海員ノ閱覽ニ供スル爲メ船員常用室ニ備ヘ置クコト  
ヲ要ス

註、此ノ複本ハ一九〇三年六月十六日ノ聯邦參議院布告ニ依リ快遊船及海洋漁業船若ハ沿海航行船ニシテ三百立方米突以下ノ容積ヲ  
有スルモノニハ之ヲ備ヘ付クルコトヲ要セス

第一條第二項、第二章、第三十六條、第四十三條、第四十四條、第四十九條、第五十九條乃至第六十四條、第  
六十五條第二項、第三項及第三百三十三條ノ規定ハ小形船(沿岸航行船等)ニ對シテハ聯邦參議院ノ命令ヲ  
以テ全部若ハ一部ノ適用ヲ除外スルコトヲ得、此ノ命令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ之ヲ告知ス  
ルコトヲ要ス

第三百三十五條 左ニ掲クル船舶ニ對シテハ次ニ掲クル規定ヲ適用セス

- 一、海上曳船ニ對シテハ第一條第二項及第三十五條乃至第三十八條ヲ
- 二、救難船ニ對シテハ第一條第二項及救助行爲ニ從事中ニ限リ第三十五條乃至第三十八條ヲ
- 三、海洋漁業船ニ對シテハ第三十六條、第三十七條第二項、第三十八條第一項及乘組員カ契約ニ基キ利  
益分配ヲ受クル場合ニ於テハ第一條第二項ヲ

第三百三十六條 外國ニ於ケル獨逸船舶乘組員ニ對スル雇傭契約ノ成立若ハ雇傭關係終了ノ告知ハ外國ノ法  
律ニ依レハ其ノ國ノ官廳ニ於之ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ帝國宰相ハ海員局(第十三條及第十八條)ニ於  
テ爲スヘキ雇入及雇止ノ公認ニ代ユルニ外國官廳ニ於テ告知ヲ爲スヘキコトヲ指示シタル海員局ノ海員



名簿上ノ記載ヲ以テスルコトヲ得ヘキコトヲ規定スルコトヲ得

第三百三十七條 本法ハ一九〇三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス、一八七二年十二月二十七日ノ船員法ハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

第三百三十八條 他ノ法律ニ於テ本法ニ依リ廢止セラレタル規定ヲ指示セルトキハ之ニ相當スル本法ノ規定之ニ代ル

### 海員ノ船舶勤務ノ適否審査ニ關スル布告 一九〇五年七月一日

一九〇二年六月二日ノ船員法第七條第四項ノ規定ニ基キ聯邦參議院ハ海員ノ船舶勤務ノ適否審査ニ關スル左ノ規則ヲ發布ス(帝國法律公報第一百七十五頁)

第一條 小航海ノ範圍ヲ越ユル航海ヲ爲ス商船ノ乗組員(船員法第二條第三項)ハ雇入公認前船舶勤務ノ適否審査ノ爲體格検査ヲ受クルコトヲ要ス

北歐洲ノ海洋ヲ航海スル海洋漁業船ニ對シテハ第一條乃至第六條ノ規定ヲ適用セス

第二條 獨逸ノ海港(船員法第六條第二項)ニ於テ雇入ノ公認ヲ爲ストキハ體格検査ハ醫師ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ要ス、船長及船舶所有者ハ(第二項ノ場合ヲ除ク)自ラ検査ニ立會ヒ若ハ代理人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得、獨逸外ノ海港ニ於テ醫師ヲ招聘スルコト困難ナル場合ニハ船長ハ例外トシテ海員局ノ官吏立會ノ下ニ自ラ検査ヲ行フコトヲ得(船員法第五條第一項)

婦人使用人ノ體格検査ハ醫師ノ外之ヲ爲サシムルコトヲ得ス、醫師若ハ受験者ノ希望アルトキハ他ノ婦人ヲ立會ハシムルコトヲ要ス

第三條 雇入公認ヲ爲シタル者ノ検査成績ハ文書ヲ以テ確定スルコトヲ要ス、該記録ハ雇入公認ノ日



ヨリ起算シ二年間船舶所有者ニ於テ之ヲ保存スルコトヲ要ス  
船舶所有者ハ海員ノ要求ニ從ヒ勤務終了ノ際謄本ニ依リテ検査成績ヲ之ニ告知スルコトヲ要ス  
第四條 検査ノ結果擔當スヘキ勤務(第五條、第六條)ニ不適任ナルコト分明トナリタル者ハ雇入ノ公認ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 特ニ不適任ノ事由ト認メラル、モノ左ノ如シ  
一般的身體虛弱、精神病、癲癩其ノ他ノ重大ナル神經病、重症ナル心臟病、傳染病中特ニ傳染性結核病、皮膚若ハ口腔ニ潰瘍アル微毒、膿漏ヲ起セル麻疹、下疳  
特定ノ船舶勤務ニ限り不適任トセラル、モノ左ノ如シ

充分發達セル下腹部「ヘルニヤ」(脱腸)、範圍廣キ皮膚潰瘍、廣キ癍痕ニシテ殊ニ疾患再發ノ惧アルモノ、瘻管、大ナル腫瘍、著シキ聽覺障害、耳聾  
火夫若ハ石炭線ノ勤務ニ對スル検査ニ於テハ此ノ勤務ノ特別ナル必要上實行能力及抵抗力ヲ參酌スルコトヲ要ス、特ニ脂肪過多症者、心臟病者ハ此ノ勤務ヲ爲サシムルコトヲ得ス、十八歳以下ノ者ハ火夫若ハ石炭線ノ勤務ニ關シ唯例外トシテ且検査醫師ノ同意ヲ得タル場合ニ限り雇入ノ公認ヲ爲スコトヲ得

第六條 検査醫師ノ診斷ニ依リ受験者カ一般船舶勤務若ハ擔當ス可キ特別ナル船舶勤務ニ不適任又ハ制限

付適任若ハ多少不適任ナリトセラレタル缺點ヲ有スルトキハ検査醫師ハ遲滯ナシ船長、船舶所有者若ハ其ノ代理人ニ之ヲ告知スルコトヲ要ス

第七條 海員ノ視力及辨色力ニ關シテハ凡テノ航海ニ對シテ以下ノ規定ヲ適用ス

甲板勤務ニ指定セラレタル海員ハ内地ニ於ケル最初ノ雇入公認前ニ帝國宰相ノ發布シタル視力及辨色力ニ關スル規則ニ從ヒ之ヲ料査スルコトヲ要ス(一九〇四年三月九日布告、獨逸帝國官報第二百一十四頁)  
充分ナル視力及辨色力ヲ有スルコトヲ検査ノ上附與セラレタル認證ニ依リテ證明スルコトヲ得ル海員ニ限り之ヲ見張勤務ニ使用スルコトヲ得

第八條 船長ハ雇入公認港發航前甲板勤務ニ指定セラレタル海員ノ視力及辨色力検査成績證明書ヲ慎重ニ檢閲スルコトヲ要ス

第九條 船舶所有者ハ本規則ノ遵守ヲ監督スルコトヲ要ス但船長ニ屬スル義務ハ之ニ依リテ妨ケララルコトナシ

第十條 帝國宰相ハ聯邦政府ト協議ノ上本規則ニ對スル例外ヲ設クルコトヲ許可スルコトヲ得

第十一條 本規則ハ一九〇五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス



## 商船乗組員ノ常用室、洗濯室、浴室及便所ニ關スル布告

(一九〇二年七月二日)

一九〇二年七月二日ノ船員法第五十六條第二項ノ規定ニ基キ聯邦參議院ハ船舶乗組員ノ常用室、洗濯室、浴室及便所ノ大サ及構造ニ關シ以下ノ規則ヲ發布ス

### 船舶乗組員ノ常用室ノ大サ及構造

第一條 四百立方メートル以上ノ總容積ヲ有スル商船ニ對シテハ海洋漁業船ヲ除外シ以下ノ規定ヲ適用ス

一、船員常用室ノ大サハ各船員一名ニ對シ少クモ三、五立方メートルノ空間ヲ存スル如ク設計スルコトヲ要ス、最上甲板ニ在ル室其ノ他種々ノ事情ニ依リ多クノ空氣ノ流通ヲ保障セラル、室ニ付テハ少クモ各船員一名ニ對シ三立方メートルヲ以テ足ル、空間ト稱スルハ船員常用室内ニ含マルル船體構成部分ヲ減シタル殘餘ノ容積ヲ謂フ

床ノ平面ニ付テハ各船員常用室ニ於テ收容セラレタル各船員ニ對シ少クモ一、五平方メートルヲ存スルコトヲ要ス、此ノ平面ハ船員常用室ニ於ケル被收容者ニ對シ特別ナル食堂ノ設備アルトキハ一、二五平方メートル迄ニ減スルコトヲ得、平面ノ計算ニハ船骨ノ内縁ニ至ル迄ヲ計算スルコトヲ要ス上方ニ



傾斜シタル壁ヲ有スル船員常用室ニ付テハ床ノ平面ノ代リニ室内ノ高サノ中央ニ於ケル水平横断面ヲ計算ノ基礎トナスコトヲ得

二、船員常用室ノ中央内法<sup>ウチノリ</sup>ノ高サハ少クモ二米突、二千立方米突ヲ超エサル總容積ヲ有スル船舶ニ在テハ少クモ一、八〇米突ヲ有スルコトヲ要ス

三、船員常用室ハ出來得ル限リ隣室ノ濕氣、惡臭、熱氣其ノ他ノ有害ナル影響ヲ防クコトヲ要ス

四、貨物室ニ赴ク通路ハ船員常用室ヲ通過スルコトヲ得ス、倉庫ハ「チエーンロッカー」ヲ除キ夜間

ニ於テハ急迫ノ場合ニ限リ船員常用室ヲ經テ往來スルコトヲ得

五、各船員常用室ハ充分日光ヲ受ケ得ルコトヲ要ス、曇天及夜間ニ於テハ人工ニ依リ充分ノ採光ヲ爲スコトヲ要ス

六、船員常用室ノ中央部ハ出來得ル限リ箱、隧道、貫通セル通風器其ノ他ノ導管ヲ存在セシムヘカラス

七、船員常用室ノ床ハ木板ヲ以テ之ヲ覆ヒ又ハ厚クシテ容易ニ清潔ヲ保チ得且熱ヲ導キ難キ被覆物ヲ有スルコトヲ要ス、船員常用室ノ壁及天井ハ鮮明ナル油性塗料（ペンキ）ヲ以テ之ヲ塗ルコトヲ要ス、鐵板ヲ其ノ儘天井トスルトキハ水滴ノ滴下ヲ防クヘキ物ヲ以テ之ヲ蔽フコトヲ要ス

八、各船員ノ一般ノ使用ニ供スル爲専用ノ寢床ヲ與フルコトヲ要ス、隔壁ナキ二人寢床ハ之ヲ設クル

コトヲ得ス、寢床ノ長サハ内法<sup>ウチノリ</sup>一、八三米突以下ト爲スコトヲ得ス幅ハ内法〇、六米突以下ナルコトヲ得ス

床ト最下ノ寢床トノ距離ハ少クモ二十五仙米突ナルコトヲ要ス、鐵製ニシテ且容易ニ取り離シ得ヘキ三個寢床カ相重複シテ存在スルトキハ其ノ距離ハ十五仙米突迄下スコトヲ得、互ニ重ナル二寢床間ノ距離並上ノ寢床ノ床ト船員常用室ノ天井トノ間ノ距離ハ少クモ七十五仙米突ナルコトヲ要ス、三個以上ノ寢床ヲ重スルコトヲ得ス

九、窓及扉ニ依ル自然ノ空氣流通ヲ除キ各船員常用室ハ窓ヲ閉チタル場合ニモ充分ナル換氣ヲ可能ナラシムル装置ヲ爲スコトヲ要ス、通風器ノ設備在ルトキハ其ノ下端ハ寒冷ナル氣流カ直接ニ寢床ニ達セサル如ク設備スルコトヲ要ス

十、天候寒冷ナルトキハ船員常用室ハ充分ニ溫度ヲ保タシムルコトヲ要ス、鐵製暖爐ハ少クモ五仙米突離レ且取外シ得ル鐵ノ蔽ニシテ底ニ二三ノ大ナル開口ヲ有スルモノヲ以テ之ヲ圍ムコトヲ要ス、爐ハ煙筒ニ蓋ヲ附スルコトヲ得ス又爐管ハ閉鎖器ヲ附スルコトヲ得ス

十一、船員常用室ニ於ケル机、椅子、棚其ノ他ノ備付ハ正當ナル要求ニ相應スルモノナルコトヲ要



ス  
各船員常用室ニ於テハ特別ナル食堂若ハ寢室ヨリ離レタル場所ニ食事ノ際占據スヘキ其ノ他ノ設備  
ナキトキハ食卓及座席ハ少クモ同室者ノ半數ヲシテ用テ便セシムルニ足ルコトヲ要ス、各船員常用  
室ニハ少クモ一個ノ痰壺ヲ置キ且毎日之ヲ洗滌スルコトヲ要ス

十二、各船員常用室ノ扉ニハ現在人員々數ヲ明白ニ揭示スルコトヲ要ス

十三、船員常用室ハ常ニ清潔ナラシムルコトヲ要ス

第二條 四百立方米突以下ノ總容積ヲ有スル商船竝凡テノ海洋漁業船内ニ於テハ船員法第五十五條第一項  
ノ規定ニ應シ船船乗組員ノ宿泊ノ場所ニ關シ出來得ル限リノ注意ヲナスヘシ

乗組員ノ洗濯室及浴室ノ構造、設備

第三條 各商船内ニ於テハ乗組員ニ身體ヲ清潔シ又ハ物品洗濯ヲ爲ス機會ヲ與フルコトヲ要ス

第四條 船船乗組員ノ數二十名ヲ越ユル凡テノ汽船内ニ於テハ少クモ一個ノ明ルク且清潔ナル洗濯室ヲ備  
フルコトヲ要ス、洗濯ノ装置ハ各船員ニ特別ナルモノナキ限リ當直船員二名毎ニ一個ヲ存スル如クニ設  
クルコトヲ要ス、洗濯室ハ暖メ得ル装置ヲ有スルコトヲ要ス、蒸氣暖房ノ装置ナキ貨物氣船ニ於テハ此  
ノ規定ノ實行ヲ除外スルコトヲ得、洗滌設備ト便所トハ同室ニ之ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取

締規則又ハ便所ノ圍壁ニ依リ道德觀念ニ背馳セサル様注意スルコトヲ要ス

第五條 機關部員ニ對シテハ其ノ數十名ヲ越ユル場合ニ限リ一個ノ特別ナル洗滌室ヲ存置スルコトヲ要  
ス、此ノ洗滌室ハ可及的機關部員カ船員常用室ニ入ルニ先チ汽罐室及石炭室ヨリ達シ得ル場所ニ在ルコ  
トヲ要ス、此ノ洗滌室ノ大サハ少クモ機關部員中ノ六分ノ一カ同時ニ洗滌シ得ルコトヲ要ス、洗滌室ハ  
水管、灌水器(シャワー)(同時ニ洗滌スル者四名毎ニ一個)及洗滌器ヲ備フルコトヲ要ス、此ノ洗滌室ニハ温湯ヲ汲  
取ル装置アルコトヲ要ス

第六條 旅客ニ對シ温湯灌水器ノ存在スル汽船ニ在テハ乗組員ニ對シテモ之ヲ設備スルコトヲ要ス前項ノ  
設備ニ付テハ出來得ル限リ入浴者ノ湯傷ヲ防止スヘキ装置ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 中航海若ハ大航海ニ於ル汽船内ニ於テハ少クモ一週間二回身體ヲ洗滌スル爲ニ乗組員ニ淡水ヲ供  
給スルコトヲ要ス、海洋漁業船カ北歐洲ノ海洋ニ於ケル航海ヲ爲ス場合ニハ此ノ規定ヲ適用セス

第八條 洗滌室及浴室ハ日々之ヲ洗淨スルコトヲ要ス

船舶乗組員用便所ノ構造、設備

第九條 商船内ニ於テハ四百立方米突以下ノ總容積ヲ有スル帆船ヲ除キ乗組員用ノ閉鎖セル室内ノ便所及  
小便所ヲ備フルコトヲ要ス、小便所ハ大便所室内ニ置クコトヲ得、海上解船ニ在テハ乗組員ニ對シ一個ノ



固著セル安全ナル小便所ヲ有スルヲ以テ足ル

給仕ニ對シテハ其ノ數十名ヲ越ユルトキハ一個ノ特別ナル便所ヲ設クルコトヲ要ス

第十條 便所ハ便器ノ位置カ水平面以上ニ在ル程度ナルコトヲ要ス、便所ハ隣接ノ船員常用室ヨリ一個若ハ數個ノ室又ハ少クモ扉ナキ臭氣ヲ防ク隔壁ニ依リ分離スルコトヲ要ス

便所ハ有効ナル換氣ノ設備有ルコトヲ要シ且充分日光ヲ受ケ得ルコトヲ要ス、天井及壁ハ鮮明ナル油性塗料(ペンキ)ヲ以テ之ヲ塗ルコトヲ要ス、床ハ空氣及水ノ洩ラサル様爲スコトヲ要ス

第十一條 便所ハ少ナクモ幅五十仙米突ノ便器ヲ有シ其ノ數ハ百名ヲ超ヘサル船舶乗組員ニ付テハ二十五名毎ニ少クモ一個、百名以上二百名以下ノ船舶乗組員ニ付テハ右ノ外三十三名毎ニ少クモ一個、二百名以上ノ船舶乗組員ニ付テハ右ノ外五十名毎ニ一個ヲ設クルコトヲ要ス

便器ノ使用ニ慣レサル歐洲人以外ノ船舶乗組員用便所ニ付テハ便器ノ設備ハ之ヲ除外スルコトヲ得

第十二條 總容積四百立方米突ヲ超ヘサル帆船ニ在テハ動カシ得ヘキ安全ナル用便設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 便所及小便所ハ毎日之ヲ洗淨スルコトヲ要ス

一般規則

第十四條 第一條第一號、第二號、第三號、第四號、第五號ニ包含セラル、規定並寢床ノ大サ及距離ニ關スル

第一條第八號ノ規定、第四條乃至第六條、第九條第二項、第十條第一項及第十一條第一項ニ包含セラル、規定ハ一九〇五年十月一日以後ニ建造ノ注文ヲ爲ス船舶ニ限リ之ヲ適用ス

第十五條 本布告ニ規定シタル室及設備ヲ規定ニ準據シテ製作スルコトニ付テハ船舶所有者、其ノ規定ニ從フ取扱及使用ニ付テハ船長之ヲ監督スルコトヲ要ス

第十六條 船員常用室並船舶乗組員ノ洗濯室、浴室及便所ノ設計、構造及維持ハ獨逸ノ海港ニ於テハ聯邦政府ノ規定ニ從ヒ管轄權アル官廳ノ正規ノ監督ニ服ス

第十七條 帝國宰相ハ聯邦政府ト協議ノ上本規則ノ例外ヲ設クルコトヲ得

第十八條 本規則ハ一九〇六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス



## 海員送還ニ關スル商船ノ義務ニ關スル法律（一九〇二年六月二日）

第一條 獨逸以外ノ海港ヨリ獨逸ノ海港若ハ英佛海峽、英國、「ズンド」、「カテガット」、北海又ハ東海ニ於ケル獨逸以外ノ港ニ向テ航行スル凡テノ獨逸商船ハ帝國領土外ニ於テ救助ヲ要スル状態ニ在リ若ハ帝國法律ニ從ヒ處罰セラルヘキ行爲ヲ爲シタル爲本國官廳ニ引渡サルヘキ獨逸海員ヲ海員局ノ書面ニ依ル指定ニ基キ獨逸國ニ送還スル爲賠償ヲ得テ指定港ニ伴フヘキ義務ヲ負フ、船舶カ他ノ獨逸以外ノ港ニ向ヒ同港ヨリ更ニ前掲ノ港ノ一ニ向フコトアル場合ニ付亦同シ、本項ニ於テ獨逸港ト稱スルハ帝國本土内ノ港ノミヲ謂フ

帝國本土以外ニ於テ獨逸商船内ノ勤務ニ服シタル後間モナク救助ヲ要スル状態ニ陥リタル外國海員ニ關シテハ其ノ本國港ニ向テ獨逸商船ハ前項ノ義務ト同一ノ義務ヲ有ス

此ノ義務ノ履行ニ關シテハ船長ハ海員局ニ依リ強制セラル、コトアルヘシ

註、即帝國々旗ヲ掲ケル權利ヲ有スル船舶ノミニ非ス

第二條 二個以上ノ船舶カ同時ニ送還ノ便宜ヲ有スルトキハ送還スヘキ海員ハ船舶ノ大サ及乗組員ノ數ニ應シ海員局ニ於テ各船舶ニ之ヲ配付ス



第三條 送還ハ次ノ場合ニハ之ヲ拒絶スルコトヲ得

- 一、送還セラルヘキ者ニ對スル適當ナル場所カ船舶内ニ存在セサルトキ及範圍ニ於テ
- 二、被送還者カ臥床ヲ要スル病氣又ハ船舶内ニ在ル者ノ健康若ハ安全ニ危險ヲ及ホスヘキ性的其ノ他ノ疾病ニ罹レルトキ
- 三、被送還者ノ數カ救助ヲ要スル者ノ場合ニ在テハ船舶乗組員ノ四分ノ一、處罰ヲ受クヘキ者ノ場合ニ在テハ六分ノ一ヲ超ユルトキ又ハ一名以上ノ處罰ヲ受クヘキ者ヲ送還スヘキトキ及範圍ニ於テ
- 四、船舶カ發航スヘキ時期ノ少クモ二日前ニ送還ヲ要求セラレサルトキ
- 五、契約ニ依リ送還義務ヲ有スル獨逸汽船會社ノ當該航路汽船カ定期航海ニ依ル獨逸歸航ノ際送還港ニ寄港スルトキ

拒絶ノ理由ノ當否ニ關シテハ海員局之ヲ決定ス

註、其ノトキニ存在スル船舶乗組員

第四條 救助ノ爲送還セラル、者ハ航海中船舶ニ於テ其ノ地位ニ相當ト認ムル(第五條)糧食及居室ヲ與ヘラルヘシ

犯罪行爲ニ基キ送還セラルル者ハ海員局ノ與ヘタル指圖ニ從ヒ之ヲ取扱フコトヲ要ス、特別ノ同伴者

ナキトキハ監視ハ船長ノ義務トス

被送還者ハ船長ノ懲戒權ニ服ス

第五條 特約ナキ場合ニ於テ賠償トシテ(第一條)支拂フヘキモノ左ノ如シ

- 第一、救助ヲ要スル者ノ送還ニ付テハ船舶内滞在一日毎ニ
  - 一、船長若ハ船舶職員ニ付テハ帆船ニ在テハ三馬克、汽船ニ在テハ六馬克
  - 二、他ノ海員ニ付テハ帆船ニ在テハ一、五〇馬克、汽船ニ在テハ三馬克
- 第二、犯罪行爲ニ基キ送還セラル、者ニ付テハ通常ノ運賃額、若之ヲ見出シ難キトキハ送還ニ付定メタル金額ノ二倍トス、且此ノ外特別ナル同伴者ナキトキハ送還命令ヲ發スル海員局(第一條)ノ假定メタル相當ノ監視ノ費用、此ノ賠償金ノ算定ニ付テハ聯邦參議院ニ於テ一定ノ原則ヲ立ツルコトヲ得

第六條 賠償ハ送還命令(第一條)ニ基キ爲サレタル引渡ニ對シ帝國ノ計算ニ於テ目的港ニ於ケル海員局之ヲ支拂フモノトス

註、第七條參照

第七條 救助ノ爲送還セラル、者ハ送還ニ依リテ生シタル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

海員送還ニ關スル商船ノ義務ニ關スル法律



船舶所有者其ノ他ノ者ノ送還費用支辨ノ義務ヲ定ムル規則ハ此ノ法律ニ依リ妨ケラル、コトナシ  
犯罪行為ニ基キ送還スル場合ニ於テ被送還者カ刑事訴追若ハ刑罰執行ノ爲引渡ヲ受ケタル官廳ノ屬スル  
聯邦國ニ對スル求償權ハ帝國ニ於テ之ヲ留保ス

第八條 第一條ニ依リ負擔スヘキ義務ノ履行ヲ爲サ、ル者ハ百五十馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス、刑罰  
ノ確定及爾後ノ手續ニ關シテハ船員法第五條、第二百二十二條乃至百二十五條ノ規定ヲ適用ス

第九條 本法ハ一九〇三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス、一八七二年十二月二十七日ノ救助ヲ要スル海員送還  
ニ關スル獨逸商船ノ義務ニ關スル法律ハ同日ヲ以テ其ノ効力ヲ失フ(獨逸帝國法律公報第四百三十二頁)  
第十條 他ノ法律ニ於テ一八七二年十二月二十七日ノ救助ヲ要スル海員送還ニ關スル獨逸商船ノ義務ニ關  
スル法律ノ規定ヲ指示セルトキハ本法中ノ相應規定之ニ代ル

## 千九百十年六月二日ノ職業媒介人法

第一條 本法ニ於テ媒介人ト稱スルハ營業トシテ

- 一、職業ニ關スル契約ノ媒介ヲ爲ス者
- 二、職業ヲ得ル機會ヲ告知シ且此ノ目的ノ爲メニ勞務供給者若ハ勞務需要者ト特殊ノ關係ニ立ツ者ヲ  
謂フ

第二條 職業媒介人營業ヲ爲サント欲スル者ハ聯邦中央官廳ヨリ指定セラレタル官廳ノ許可ヲ受クルコト  
ヲ要ス左ノ場合ニハ許可ヲ拒絕スルコトヲ要ス

- 一、許可ヲ受ケムトスル營業若ハ個人的關係ニ關シテ出願者ノ不信任ヲ證スヘキ事實存在スルトキ
  - 二、職業媒介人ノ必要存在セサルトキ、其ノ地若ハ當該經濟的地域ニ對シ公共ノ利益トナルヘキ公的  
勞務案内カ充分ナル範圍ニ於テ存在スルトキハ特ニ必要ヲ認ム可ラサルモノトス
- 許可ヲ與フルニ當リ許可ヲ受クヘキ媒介業ニ依リテ媒介ヲ爲スコトヲ得ヘキ職業ノ種類ヲ指示スルコト  
ヲ要ス

第三條 媒介人營業ヲ爲ス者ハ宿屋、小酒屋、酒類小賣業、營業トシテノ住居若ハ寢所ノ賃貸、衣服商、日用



品商、煙草屋、享樂的商品商、富籤商、理髮業、兩替業、質屋又ハ質屋仲立業ヲ自己若ハ他人ニ依リテ營ムコトヲ得ス

媒介人ハ(勞務需要者ニ非サル)第一項ニ掲ケタル種類ノ營業者トノ間ニ於テ自己ノ行爲ノ實行ニ對シ報酬ヲ與ヘ若ハ約セシムルカ如キ業務上ノ關係ヲ結フコトヲ得ス但媒介人ノ行爲カ該營業者ノ業務ノ爲要求セララルル場合ニハ本規定ヲ適用セス

媒介人業者ハ其ノ營業ヲ他ノ自己若ハ他人ノ營業ノ廣告ニ利用スルコトヲ得ス

媒介人ハ職業ヲ求ムル者ニ對シ自己若ハ自己ノ指定シタル營業又ハ商業ヨリ物品ヲ前借スル義務ヲ負ハシメ若ハ之ヲ強要スルコトヲ得ス

職業媒介人ハ勞務供給者ト雇傭關係若ハ從屬關係ニ立ツコトヲ得ス

第四條 勞務ノ需要者若ハ供給者カ將來特定ノ職業媒介業者ノ助力ヲ求ムルヤウ盡力スルノ義務ヲ負ヒ若ハ既ニ義務ヲ負ヒタル契約ハ無効トス

第五條 媒介人ニ歸屬スヘキ手數料ニ付テハ聯邦ノ中央官廳若ハ其ノ指定シタル官廳ハ公共ノ勞務案内所ノ代表者ノ意見ヲ聞キ媒介人、勞務ノ供給者及需要者ノ代表者ト協議ノ上其ノ額ヲ定ム

手數料ハ契約カ媒介人ノ行爲ニ基キ成立シタルトキニ限り之ヲ取立ルコトヲ得、當事者双方ヨリ媒介人

請求シタルトキハ勞務供給者及勞務需要者ハ手數料ノ各半額宛ヲ支拂フコトヲ要ス、勞務需要者ノ爲不利益ナル反對ノ特約ハ無効トス

手數料ノ外ニ他ノ報酬ヲ取立ツルコトヲ得ス、實費ノ賠償ハ其ノ費用カ要求ニ基キ且委任者トノ契約ニ從ヒ之ヲ使用シ且相當ナリト證明セラレタル範圍内ニ於テノミ之ヲ請求スルコトヲ得

媒介人ハ媒介契約締結前ニ職業ヲ求ムル者ニ對シ其ノ者ノ適用ヲ受クヘキ手數料額ヲ告知スヘキ義務ヲ負フ

手數料額ハ業務室内ノ目ニ付キ易キ場所ニ之ヲ揭示スルコトヲ要ス

第二項ノ規定ハ職業表及缺員表ノ交付ニ付テハ之ヲ適用セス

第六條 媒介人ハ雇傭帳簿、徒弟帳簿、證據書類、證明書其ノ他媒介行爲ニ基キ其ノ占有ニ歸シタル物ヲ所有者ノ意思ニ反シテ留置スルコトヲ得ス、特ニ此等ノ物ニ付留置權若ハ質權ヲ行使スルコトヲ得ス

第七條 女子ニ對シ外國ニ於ケル職業ヲ媒介スル媒介人ハ其ノ都度細則ノ定ムル所ニ從ヒ管轄警察官署ニ被媒介者ノ姓名及媒介シタル職業ヲ記シタル目錄ヲ提出スルコトヲ要ス

第八條 聯邦中央官廳ハ媒介人ノ權利、義務ノ範圍及營業ニ關スルノ規則ヲ發布スルコトヲ得

第九條 媒介人營業ノ許可ハ媒介人ノ行爲若ハ不行爲ニ基キ其ノ營業若ハ個人的關係ニ關シ信用スヘカラ



サルコト分明トナリタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

一九一〇年十月一日以前ニ媒介業務ヲ開始シタル媒介人ト雖前項ノ事實アルトキハ營業ヲ禁止スルコトヲ得、此ノ禁止ハ帝國全體ニ對シ効力ヲ有ス

媒介人カ確定シタル手數料ノ額ヲ超過シ若ハ之ニ相當スル手數料以外ノ報酬ヲ勞務供給者若ハ勞務需要者ヨリ受ケ若ハ約セシメ又ハ媒介人カ第三條及第十二條第一項第五號ニ違反シタルカ爲屢々處罰ヲ受ケタルトキハ常ニ信用スヘカラサルモノト推定ス、公共ノ勞務案内所ノ代表者ハ獨立シテ許可剝奪ヲ求ムル申立ヲ爲ス權利ヲ有ス

第十條 許可ヲ拒絕シ若ハ取消シ又ハ營業ヲ禁止スル裁決ハ行政訴訟ノ手續ニ依リ之ヲ爭フコトヲ得、斯ル手續存在セサルトキハ營業條例第二十條及第二十一條ノ規定ヲ適用ス

第十一條 本法ノ複寫ハ凡テノ獨逸商船内ニ於テ常ニ海員ノ閱覽ニ供スル爲船員常用室ニ存置スルコトヲ要ス

第十二條 左ノ行爲ヲ爲シタル媒介人ハ六百馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス

- 一、法定ノ許可ナクシテ營業ヲ爲シ若ハ繼續スルトキ
- 二、第三條第一項ニ依リ禁止セラレタル營業ヲ爲シ若ハ繼續スルトキ又ハ同項ニ掲ケタル種類ノ營業

者ヨリ媒介行爲ノ實行ニ對シ禁セラレタル報酬ヲ受ケ若ハ約セシメタルトキ

三、自己ノ營業ヲ自己若ハ他人ノ營業ノ廣告ニ利用シ又ハ職業ヲ求ムル者ニ對シ自己若ハ自己ノ指定シタル營業又ハ商業ヨリ商品ヲ前借スル義務ヲ負ハシメ若ハ之ヲ強要シタルトキ

四、官廳ノ定メタル額ヲ超ヘ若ハ之ニ相當スル手數料以外ノ報酬ヲ勞務需要者若ハ勞務供給者ヨリ受ケ若ハ約セシメタルトキ(第五條第一項乃至第三項)

五、勞務需要者ヲ欺罔シテ既成ノ勞務契約ヲ破棄セシメタルトキ何等カノ報酬ヲ與ヘ若ハ約シ媒介人ヲシテ勞務需要者ノ利益ニ反スル媒介行爲ヲ實行セシムトシタル第三條第一項ニ掲ケタル種類ノ營業者ニ對シテ同一ノ刑ヲ科ス

第一項及第二項ニ掲ケタル違反行爲ニ基キ確定判決ヲ受ケタル者カ五年以内ニ再ヒ斯クノ如キ違反行爲ヲ爲シタルトキハ百馬克乃至六百馬克ノ罰金若ハ拘留ニ處ス

第十三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ百五十馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス

- 一、第五條第四項、第六條若ハ第七條又ハ第八條ニ違反シタルトキ媒介人
- 二、内地ニ於テ一定ノ時期以前ニ入港船舶ニ立入り又ハ酒精含有飲料ヲ船舶内ニ持込ムコトヲ禁止スル管轄官廳ノ規則ニ違反シタル媒介人及第三條第一項ニ掲ケタル營業者



三、内地ニ於テハ管轄官廳ノ規則、外國ニ於テハ海員局ノ命令ニ反シテ媒介人及第三條第一項ニ掲ケタル營業者ヲ船舶ニ入ラシメ若ハ船内ニ在ルコトヲ默認シタル船長

四、本法ノ複寫ヲ船員常用室ニ存置セシムルコトヲ怠リタル船長(第十一條)

第一項第三號及第四號ノ場合ニ於テ外國ニ於ケル刑罰ノ確定及爾後ノ手續ニ付テハ船員法第五條、第二百二十二條乃至第二百五條ノ規定ヲ適用ス

第十四條 媒介人ノ營業ニ關シテハ本法ニ特別ノ規定ナキ限リ營業條例ノ規定ヲ適用ス

第十五條 聯邦中央官廳ハ第三條及第五條ノ規定カ營業ニ非サル職業案内若ハ勞務案内ニ適用セラレヘキ範圍ヲ定メ且案内者ノ權利及義務ノ範圍竝案内行爲ニ關スル其ノ他ノ規定ヲ發布スルコトヲ得

第十六條 第十五條ニ基キ定メラレタル規則ニ違反シタル非營業職業案内若ハ勞務案内ノ監理者若ハ使用人ハ百五十馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス

第十七條 二年以内ニ屢々營業ニ非サル職業案内若ハ勞務案内ノ監理者若ハ使用人カ違反行爲ニ因リ第十六條ニ依リ確定判決ヲ受ケタルトキハ聯邦ノ中央官廳若ハ其ノ指定シタル官廳ハ媒介行爲ヲ禁止スルコトヲ得

第十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 禁止ノ處分ヲ受ケタル後猶媒介行爲ヲ繼續シ又ハ禁止ノ處分ヲ爲シタル官廳ノ許可ナクシテ再

ヒ媒介行爲ヲ爲シタル者ハ六百馬克以下ノ罰金若ハ拘留ニ處ス

第十九條 本法ハ一九一〇年十月一日ヨリ之ヲ施行ス、之ト同時ニ廢止セラレ、法律左ノ如シ

一九〇二年六月二日ノ海員媒介ニ關スル法律(帝國法律公報第二百十五頁)

僕婢周旋者及職業媒介人ニ關スル營業條例第三十四條、第三十八條、第五十三條、第七十五條ノ一、第四百四十八條第八號及第四百四十九條第七號ノ一ノ規定



# 船員及準船員ノ兵役關係及其ノ海員トシテノ公認ニ

## 關スル規則類纂 (一九〇三年總纂)

### 第一、現役服役前ノ義務

一、船員ニ屬スル者左ノ如シ

- (イ) 職業的船員即少クモ一年間獨逸ノ航洋船、沿岸航行船若ハ内海航行船ニ乗組ミ航海ヲ爲シタル者
- (ロ) 少クモ一年間營業トシテ漁業ヲ爲シタル海洋、沿岸若ハ内海ノ漁夫
- (ハ) 海洋ヲ航行シタル船匠及帆匠セイルメイカー
- (ニ) 航洋汽船及河上汽船ノ機關士、油差及火夫
- (ホ) 船舶料理人及給仕コック

準船員ニ屬スル者左ノ如シ

- (ヘ) 獨逸若ハ外國ノ船舶ニ乗組ミ少クモ十二週間ノ航海ヲ爲シタル海員、雇入公認ヲ受ケ且少クモ十二週間ノ航海ヲ爲シタル凡テノ乗組員(水夫、下級水夫、少年給仕、油差、火夫、石炭繰、掃除人、電氣工、錠匠、葉鐵匠、燈火取扱人、大工、帆匠、網修繕方、皿洗、料理人、洗濯人、製菓人、製麩人、屠殺者、



理髮者、會計助手等之ニ屬ス

(ト)、營業(主トシテ(職業漁夫)又ハ副業(臨時漁夫))トシテ一年以内ノ期間内漁業ヲ爲シ若ハ爲シタル洋、沿岸及内海漁夫

臨時漁夫トハ營業トシテ單ニ二三ヶ月獨立ノ漁夫又ハ漁夫ノ雇人若ハ助手トシテ海洋、沿岸若ハ内海ノ漁業ヲ營ミ爾餘ノ期間ハ他ノ職業又ハ淡水漁業ニ從事スル者ヲ云フ

滿十七歲以後ニ於テ(イ)乃至(ト)ノ條件ヲ具備シタル者ニシテ兵役志願、新兵召集名簿作成、検査合格若ハ徵集ノトキニ際シ從來ノ職業ヲ止メ他ノ職業ニ就キタル兵役義務者モ亦船員及準船員ニ屬ス

二、船員及準船員ハ帝國海軍ニノミ徵集セラル、モノトス、船員及準船員ノ兵役志願ハ海軍ニノミ之ヲ爲スコトヲ得、兵役志願ハ滿十七歲以後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(詳細ハ第二章ニ之ヲ規定ス)

三、凡テノ男子タル獨逸人ハ二十歲トナルヘキ年ノ一月一日ヲ以テ兵役義務者トナル

兵役義務ノ開始シタル者ハ一月十五日ヨリ二月一日迄ノ間ニ新兵召集名簿編入ヲ受クル爲メ届出ヲ爲スコトヲ要ス

兵役義務者カ海上若ハ外國ニ在ルトキハ其ノ兩親、後見人其ノ他ノ者ヲシテ届出ヲ爲サシムルコトヲ要ス

ス、届出ハ雇主(船舶所有者)ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

四、新兵召集名簿編入ノ爲メ届出ヲ爲シタルトキ及検査期日ニ於テ兵役義務者ニ對シ其ノ民法上ノ關係(身分、職業)ヲ質シタルト際船員又ハ準船員ノ所屬ヲ確定ス

兵役義務履行ニ關スル欺罔行爲ノ未遂ハ獨逸帝國刑法第四百十三條ニ依リ處罰ス

五、届出ハ兵役義務者カ繼續的ノ居所若ハ住所ヲ有スル地ノ地方官公署(市廳、警察署、市町村長、私領地區長)ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

兵役義務者カ帝國本土内ニ於テ繼續的ノ居所、住所共ニ之ヲ有セサルトキハ兵役名簿ニ編入ヲ受クル爲メ出生地ノ地方官公署ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス、出生地カ外國ニ在ルトキハ兩親若ハ家長ノ住所地若ハ最後ノ住所地ニ於テ届出ヲナスコトヲ要ス、近距離ニ存在スル徵兵區ニ於ケル検査ニ出頭セント欲スルトキハ其ノ區ノ媒介ニ依リ兵役名簿ニ編入ヲ受クル旨ノ届出ヲ爲スコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ同時ニ近距離徵兵區ヘノ検査委託ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス、外國ニ滞在スル兵役義務者ノ届出ハ居所ヲ詳記シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

六、出生地以外ノ地ニ於テ届出ヲ爲シタルトキハ出生證明書ヲ提出スルコトヲ要ス

出生證明書ノ作成ハ出生地ノ身分取扱官廳ニ出願スルコトヲ要ス證明書カ新兵召集名簿ニ對スル届出ノ



爲メニ用ヒラル、コトヲ證明スルトキハ無料トス

七、新兵召集名簿ニ對スル届出ハ左ノ事項カ毎年一月十五日ヨリ二月一日ニ至ル迄ノ間ニ最終的ノ裁決ニ依リ決定セラル、迄毎年之ヲ繰返スコトヲ要ス

イ、徴集セラレタルトキ

ロ、海軍補充豫備兵ニ編入セラレタルトキ即海軍補充豫備兵票ヲ有スルトキ

ハ、不合格ノ爲免役トナリタルトキ、即兵役免除證書ヲ有スルトキ

ニ、海軍ノ勤務ヨリ免除セラレタルトキ、即免除證書ヲ有スルトキ

届出更新ノ際ニハ最初ノ兵役義務年度ニ於テ得タル抽籤票(第十九號參照)ヲ持參スルコトヲ要ス  
其ノ他住所、職業、身分等ニ關シ變更ヲ生シタルトキハ同時ニ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

八、一定ノ期間兵役補充官廳ヨリ明示ノ免除ヲ受ケ若ハ兵役名簿ニ對スル届出期日(二月一日)ノ猶豫ヲ與ヘラレタル兵役義務者ニ限り兵役名簿ニ對スル届出ノ更新ヲ爲スノ義務ヲ免除ス

九、兵役義務者カ兵役名簿ニ對スル届出後ニ於テ其ノ繼續的ノ居所又ハ住所ヲ變更シタルトキハ兵役名簿ノ訂正ヲ受クル爲先ツ出發ニ際シ兵役名簿編入ヲ取扱ヒタル官公署ニ、次ニ到着後三日内ニ其ノ地ノ兵役名簿ヲ取扱フ官公署ニ其ノ事實ヲ届出ルコトヲ要ス

十、届出義務ハ届出期間ノ懈怠ニ依リテ之ヲ免ルルコトヲ得ス。届出ヲ懈怠シタルトキハ刑罰其ノ他ノ不利益ヲ避クル爲可成速ニ之ヲ追完スルコトヲ要ス

兵役名簿編入若ハ其ノ訂正ノ爲メニスル届出ヲ怠リタル者ハ三十馬克以下ノ罰金若ハ三日以内ノ拘留ニ處ス

此ノ懈怠カ届出義務者ノ意思ニ依リテ除キ得ヘカラサル事由ニ因リ生シタルトキハ刑罰ヲ科スルコトナシ

十一、兵役義務者ノ服役義務ニ關スル裁決ハ検査及徴集ノ際之ヲ行フ但兵役義務者ハ此ノ場合ニ出頭スルコトヲ要ス

兵役義務者ハ兵役名簿ニ對スル届出ヲ爲スコトヲ怠リタルトキト雖検査及徴集ニ出頭スルコトヲ要ス  
兵役義務者ハ検査ヲ受クルコトヲ懈怠シタルトキト雖徴集ニ出頭スルコトヲ要ス

十二、出頭ハ兵役義務者カ兵役名簿ニ對スル届出ヲ爲シ若ハ爲スコトヲ要シタル徴集區ニ於テ之ヲナスコトヲ要ス

出頭ハ兵役義務者カ其ノ身分ヲ證明シ得且提出シタル書類ニ據リ確實ニ裁決ヲ爲シ得ル場合ニ限り居所地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得



十三、船員及準船員ハ出頭ニ依リ自己ノ執職ニ著シキ不利益ヲ蒙ルトキハ徵集又ハ春期ニ於ケル検査ニ出頭スル義務ノ免除ヲ受クルコトヲ得

船員カ検査及徵集ニ出頭スルノ義務ノ免除ヲ受ケムト欲スルトキハ可成速ニ出頭地ノ兵員補充委員長(郡長、警察署長、警察官、市長等)ニ對シ春期検査ノ猶豫ヲ願出ルコトヲ要ス  
許可ハ之ヲ附與セサルコトヲ得

船員ハ許可ヲ受クル迄ハ徵集及春期検査出頭ノ準備ヲ爲スコトヲ要ス之ニ違反スルトキハ處罰セラルヘシ

検査及徵集ニ出頭スルコトヲ免除セラレタルトキハ之ニ關スル認證ヲ受ケ十二月若ハ一月ニ行ハル、船員検査ニ出頭スルコトヲ要ス(二十二ヲ見ヨ)

十四、検査及徵集ニ出頭スルノ義務ノ免除ノ申請ヲ爲サス若ハ徵集免除ノ申請カ許可セラレサリシ船員ハ春期検査及徵集ニ期日ヲ違ヘス出頭スルコトヲ要ス

出頭期日ニ於ケル定メラレタル時刻ニ兵員補充官廳ニ出頭セサル兵役義務者カ之カ爲特ニ重キ處罰ヲ受ケサルトキハ三十馬克以下ノ罰金若ハ三日以内ノ拘留ニ處ス

故意ニ若ハ二度以上前項ノ懈怠ヲ爲シタルトキハ不確實ナル服役義務者トシテ取扱ヒ且直ニ兵役ニ編入

スルコトヲ得

懈怠カ出頭義務者ノ意思ニ依リ除キ得ヘカラサル事由ニ因リテ發生シタルトキハ前掲ノ效果ヲ生スルコトナシ

十五、検査ハ原則トシテ春期ニ之ヲ行フ(凡ソ二月ヨリ三月上旬ニ至ル迄ノ間ニ於テ)

検査ノ爲メノ命令ハ市町村長、市長、警察署長其ノ他ニ於テ且原則トシテ公告ニ依リテ之ヲ發ス

兵員補充官廳ノ最終的ノ裁決ヲ受ケス若ハ明示ヲ以テ春期ノ検査ニ出頭スルノ義務ヲ免除セラレサル徵兵ノ兵役義務者ハ此ノ命令ニ基キ當該検査區ノ検査ニ出頭スルコトヲ要ス

検査ノ命令ニ從ハサル兵役義務者ハ法律上ノ強制手段ニ依リ直ニ出頭セシムルコトヲ得

十六、病氣ノ爲検査期日ニ出頭スルコト能ハサリシ者ハ醫師ノ診斷書ヲ差出スコトヲ要ス但シ診斷書ヲ作成シタル醫師カ官ノ任命シタル者ニ非サルトキハ警察官署ハ其ノ診斷書ニ認證スルコトヲ要ス

兵役義務者カ病氣全治後兵役名簿ニ對スル届出ヲ爲シタル區域ノ兵役補充委員長ニ對シ臨時検査ヲ願出スルコトヲ得

十七、故意ニ検査ノ爲メノ出頭ヲ免レ若ハ兵員補充事務ノ爲ニ出頭スヘキ者屢出頭ヲ爲ササリシトキハ十

四ニ掲ケタル處罰ヲ豫期スルコトヲ要ス且不確實ナル服役義務者トシテ直ニ兵役ニ編入スルコトヲ得



不確實ナル服役義務者ハ第三服役年度完了後更ニ次期ノ除隊期日迄(即三年以上)服役スルモノトス  
十八、兵役義務者及其ノ親族ハ遅クトモ検査期日迄ニ徵集ノ猶豫ヲ願出ルコトヲ得  
斯ル猶豫ハ第四兵役義務年度迄ニ生スル徵集ニ對シ之ヲ與フルコトヲ得

獨逸ノ航海學校若ハ造船學校在學中ノ兵役義務者ハ徵集猶豫ヲ請求スルコトヲ得

検査終了後ニ於テ抗辯ノ原因發生シタルトキハ徵集猶豫ノ申請ハ徵集期日前ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但  
シ船長検査期日ニ於テハ斯ル申請ヲ爲スコトヲ得ス

十九、検査済ノ兵役義務者ニ對シテハ抽籤票ヲ下附ス、抽籤票ハ七ニ掲ケタルカ如ク凡テ後ニ於ケル新兵  
召集名簿ニ對スル届出及出頭ノ都度兵員補充官廳ニ之ヲ提示スルコトヲ要ス

二十、徵集ハ通常夏季ニ之ヲ行フ(凡ソ五月ヨリ八月迄ノ間ニ於テ)

兵役義務者ニ對スル命令ハ補有委員會ノ文官タル委員長(郡長、警察署長、警察官、市長)ニ於テ且原則ト  
シテ公告ニ依リテ之ヲ爲ス

二十一、正當ノ理由ナクシテ徵集期日ニ出頭セザリシ兵役義務者ニ付テハ十四ニ示スカ如キ手續ヲ爲スハ  
シ

二十二、合シタル兵役義務者ハ之ヲ徵集シ賜暇票ヲ下附シ且歸休兵籍ニ編入ス

賜暇票ニ服役ノ場所及時期ノ記載ナキトキハ被徵集者ニ對シ特別ナル出頭命令ヲ發スヘシ

二十三、船員ノ検査ハ十二月若ハ一月ニ於テ且航海ヲ爲ス兵役義務者ノ大多數カ存在スル徵兵區ニ於テノ  
ミ之ヲ行フ

船員検査ヲ行ハサル徵兵區ニ於テ航海ヲナス兵役義務者ハ其ノ希望ニ依リ(十三ヲ見ヨ)其ノ年十二月迄  
猶豫ヲ願ヒ且海上ヨリ歸來スル兵役義務者ト同シク臨時検査ヲ受クルコトヲ得、(詳細ハ二十六ヲ見ヨ)  
検査期日ハ兵員補充委員會之ヲ公告ス

二十四、正當ノ理由ナクシテ出頭セザルトキハ十四ニ示ス刑罰ヲ科ス

二十五、徵集セラレタル者ニ對シ賜暇票又ハ出頭命令及家事整理ノ爲メノ短期賜暇ヲ與ヘ次テ現役ニ編入  
ス

二十六、海上ヨリ歸來シタル兵役義務者カ次期ノ検査若ハ船員検査期日迄其ノ出頭ヲ待タサラムト欲スル  
トキハ兵役名簿ニ對シ届出テヲ爲シタル區域ノ兵員補充委員會ノ文官タル委員長若ハ其ノ當時ノ居所地  
ノ兵員補充委員會ノ文官タル長官ニ臨時検査ヲ申請シ且希望ニ依リ直ニ海軍軍籍編入ヲ受クルコトヲ得  
二十七、獨逸軍艦ノ艦長ハ外國ニ於テ獨逸帝國臣民ヲ志願兵、兵役義務者若ハ再役者トシテ現役ニ編入ス  
ルコトヲ得、該被編入者ハ自ラ身分ヲ證明シ且私法上何等ノ束縛ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス、此ノ



場合ニハ届出書ヲ要セス

第二、帝國海軍ニ於ケル志願者ノ服役

(甲) 一年志願兵

- 一、船員及準船員ニ屬スル青年(第一ノ一ヲ見ヨ)ニシテ一年志願兵服役ノ資格證書若ハ運轉士適任證書ヲ有スル者ハ海軍ニ於テノ其ノ服役義務ヲ盡スコトヲ得
- 二、船員カ運轉士免狀ヲ得タル後直ニ現役ニ入ラサル場合若ハ必要ナル猶豫期間ヲ有セサル場合ニハ一年志願兵服役ノ資格ヲ留保スル爲兵役義務年齢ニ達スルト同時(第一ノ三參照)若ハ與ヘラレタル猶豫期間經過以前(第一ノ十三參照)ニ出頭地ノ兵員補充委員會(第一ノ十二參照)ニ書面若ハ口頭ヲ以テ徵集猶豫若ハ再猶豫及之ニ關スル認證ノ附與ヲ申請スルコトヲ要ス
- 三、一年志願兵服役ノ資格ハ次ノ場合ニ之ヲ喪失ス
  - (イ) 當該資格者カ自己ノ過失ニ依リ服役ノ届出ヲ爲スコトナクシテ與ヘラレタル猶豫期間ヲ徒過シ若ハ服役確定後(十參照)定メラレタル時期ニ服役ノ爲出頭スルコトヲ怠リタルトキ
  - (ロ) 當該資格者カ處罰ヲ受クヘキ行爲ニシテ現役中之ヲ犯ストキハ兵士ノ第二階級ニ下サル可キ結果

ヲ伴フ程度ノ行爲ニ依リ有罪ノ判決ヲ受ケタルトキ

- (ハ) 第三審ノ兵員補充官廳ハ犯罪行爲ニ依ル有罪判決ナキ場合ニ於テモ志願兵服役ニ必要ナル道德上ノ資格ヲ有セサル一年志願服役資格者ノ資格ヲ剝奪スルコトヲ得

四、各船員ノ編入セラルヘキ部所左ノ如シ

- (イ) 準船員ハ海軍砲兵部隊若ハ海軍歩兵大隊ニ
- (ロ) 職業的船員ハ水兵團若ハ水雷部隊ニ
- (ハ) 航洋汽船若ハ河上汽船ノ機關士及機關部員ニシテ少クモ一年獨逸航洋汽船若ハ河上汽船ニ乗組航行シタル者ハ造船所團若ハ水雷部隊ノ機關部員ニ
- (ニ) 造船所團若ハ水雷部隊ノ機關部員ニ編入セラルヘキモノ左ノ如シ
  - 機關部員ニシテ少クモ十二週間海上又ハ河上汽船ニ乗組ミ航行シ且蒸氣機關ノ製作若ハ電氣工學製造所ニ於テ燈火、動力及屬具ノ裝置ノ製作ニ關スル二年實習ノ證明書ヲ提出シ若ハ機關工、錠匠、銅鍛冶、電氣工、機械工若ハ類似ノ職工トシテ三年間教職若ハ勞務ニ從事シタルコトヲ證明シタル者
- (2) 其ノ他一年志願兵服役ノ資格證書ヲ有スル陸上ノ青年ハ左ノ部處ニ編入セラルヘシ
- (イ) 海軍砲兵部隊若ハ海軍歩兵大隊ニ



(ロ) 二年間蒸汽機關製作ノ實務ニ從事シタル證明書ヲ提出シ若ハ燈火、動力及器具ノ裝置ノ製作ノ爲  
電氣工學製造所ニ於テ二年間實務ニ從事シタルコトヲ證明シタルトキハ造船所團及水雷部隊ノ機關  
部員ニ

(ハ) 高等工業學校ヲ卒業シタル造船工及機械工ハ造船所團ニ

(ニ) 帝國海軍ノ高等造船技手若ハ機械技手タラント欲スルトキハ第一水兵團ニ

五、四ノ(1)、(ロ)ハ及(ニ)ニ掲ケタル者ハ自費ヲ以テ被服及食料ヲ支辨スルノ義務ナシ、四ノ(1)、(イ)及四ノ(2)

ニ掲ケタル者ハ自費ヲ以テ被服、武裝及食料ヲ支辨スルノ義務ヲ負フ、海軍々用艦船内ニ於ケル服務中  
ノ宿泊及食料ハ無料トス

六、服役期間内自費ヲ以テ被服及食料ヲ支辨スル一年志願兵服役資格者ハ法規ノ範圍内ニ於テ自由ニ自己  
カ現役服役義務ヲ果サント欲スル海軍部處ヲ選擇スルコトヲ得、自費ヲ以テ被服及食料ヲ支辨スル義務  
ナキ一年志願兵服役資格者ハ服役關係ノ範圍内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

七、一年志願ノ編入ヲ爲スヘキ期日左ノ如シ

水兵團ニ付テハ一月三日、四月一日、七月一日及十月一日、豫備將校タラント欲スル一年志願者ニ付テハ  
十月一日トス

造船所團ニ付テハ一月三日及十月一日

水雷部隊ニ付テハ四月一日又十一月一日

海軍砲兵大隊ニ付テハ四月一日

海軍歩兵大隊ニ付テハ四月一日及十月一日

例外トシテ海軍部所ハ規定ノ期日以外ニ一年志願兵志願者ヲ編入スルコトヲ得

一年志願兵服役ノ届出ハ可成編入期日前六週間内ニ當該海軍部所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

八、届出ノ際青年ハ運轉士適任證書及從來ノ行狀ニ關スル官廳證明書又ハ一年志願兵服役資格證書及資格  
附與後ノ行狀ニ關スル官廳證明書ヲ提出スルコトヲ要ス、船員手帖アルトキハ之ヲ添へ且四ノ(2)(ロ)場  
合ニ於テハ同所ニ掲ケタル證書ヲ添附スルコトヲ要ス

九、海軍部所ノ司令官ハ届出人ノ體格検査ヲ命シ之ニ合格シ且道德上ノ資格ニ缺點ナキトキハ之ヲ編入ス  
ルコトヲ要ス

十、編入カ後日行ハルヘキ場合ニ於テハ志願者ハ採用者ト爲シ且其ノ採用ヲ資格證書ニ記入ス  
運轉士適任證書ニハ斯ル記入ヲ爲スコトナク特別ナル採用證書ヲ附與ス

十一、左ニ掲ケル一年志願兵志願者ハ造船所團及水雷部隊ノ機關部員ニ於ケル機關士タラシカ爲再役ヲ許



スコトヲ得

(イ)、獨逸海上汽船ニ於ケル一等二等及三等ノ機關士適任證書ヲ提出シタル者

(ロ)、二年間蒸汽機關製作ニ從事シタル證明書ヲ提出シタル者、電氣工作所ニ於テ二年間燈火、動力及屬具ノ裝置ノ製作ノ實務ニ從事シ若ハ三年間機關工、鉋匠、銅鍛冶、電氣工、機械工若ハ類似ノ職工トシテ敎職若ハ勞務ニ從事シタルコトヲ證明シタル者

(乙) 三年、四年、五年及六年志願兵

一、船員及準船員ハ(第一ノ一參照)ハ海軍ニ於テノ志願就役ヲ爲スコトヲ得

二、全海軍各部ハ有效ナル三年若ハ四年ノ志願就役ノ届書ヲ有スル者ヲ隨時三年志願兵若ハ四年志願兵トシテ編入スルコトヲ得、水兵團ニ付テハ其ノ外同様ノ届書ニ基キ五年若ハ六年ノ志願兵ニ編入スルコトヲ得

三、四年、五年及六年志願兵ハ第四年服務年度以後ハ之ヲ再役者ト看做ス、四年、五年若ハ六年ノ志願就役ノ届書ハ再役手續ト看做ス

四、四年、五年及六年志願就役者ハ第三服務年度經過後ニ於テハ其ノ意思ニ反スルモ豫隨時之ヲニ編入スルコトヲ得

五、三年、四年、五年及六年志願兵ノ編入ハ滿十七歳ニ達シタル後之ヲ行フ、編入ヲ受クヘキ者ハ豫メ居所地ノ兵員補充委員長ニ海軍各部ニ對シ届出ノ許可ヲ願出ツルコトヲ要ス、届書ヲ附與シテ許可ヲ與フヘキ長官ニ對シ願出ノ際左ノ書類ヲ提出スルコトヲ要ス

(イ)、出生證書

(ロ)、父若ハ後見人ノ書面ニ依ル同意

(ハ)、志願就役ノ届出ヲ爲サムトスル者カ私法上何等ノ拘束ヲ受ケ居ラサルコト及何等非難スヘキ行狀ヲカリシコトヲ證スル地方警察官署ノ認證

六、三年、四年、五年及六年志願兵ノ帝國海軍編入ハ專ラ當該海軍各部ノ司令官ノ權限ニ屬ス、缺員存在シ且編入セラルヘキ者カ體格強健ナル場合ニ限り之ヲ許可スルコトヲ要ス、適任者ノ間ニ於テハ四年、五年若ハ六年ノ服役義務ヲ有スル者ヲシテ優先セシム

七、志願就役ヲ爲サント欲スル者ハ自ラ若ハ書面ヲ以テ届書、簡單ナル履歷書及修業證書、敎授證書其ノ他ノ證書ヲ提示シテ當該海軍各部ノ司令部ニ願出ツルコトヲ要ス、司令官ハ採用ヲ爲ササルトキハ書類ヲ還付シ其ノ旨願出人ニ通知ス

八、機關士若ハ水雷機關士ニ再役ヲ爲ス場合ニ必要ナルモノ左ノ如シ



(イ) 獨逸海上汽船ノ二等若ハ三等機關士免狀

(ロ) 服役試験ニ及第スルコト但シ獨逸語ニ付テハ口頭若ハ文字ヲ以テスル思想ノ發表ニ多少熟練セルコト、算數ニ付テハ分數及小數ノ加減乗除及圖畫ニ付テハ多少簡單ナル機械各部ヲ描寫スルノ智識アルコトヲ試験ス

(ハ) 各場合ニ相當スル學校ノ證明書ノ提出

(ロ) 及ハノ場合ニ於テ其ノ外必要ナルモノ次ノ如シ

(一) 獨逸商船タル海上汽船ノ四等機關士免狀ヲ添付スルコト

(二) 又ハ機械工、鉋匠、銅鍛冶、電氣工、機械工其ノ他類似ノ職工トシテ三年間教職若ハ勞務ニ從事シタルコト但シ此ノ内一年ハ運轉セル蒸汽機關ヲ取扱フ場所ノ機關士若ハ助手トシテ經過シタルヲ以テ足ル

(三) 又ハ蒸汽機關製造所ニ於テ二年間教職ニ從事シタルコト及運轉セル蒸汽機關ヲ取扱フ場所ニ於テ機關士若ハ助手トシテ一年間實務ニ從事シタルコト

(四) 又ハ蒸汽機關製造所若ハ鉋鍛冶工場ニ於テ三年間教職ニ從事シタルコト但シ此ノ内少クモ十二ヶ月ハ蒸汽機關製造所ニ於テ經過シタルコトヲ要ス

第三、海員トシテ公認セラルヘキ者ノ兵役關係並動員ノ場合ニ於ケル心得

一、兵役義務年齢ニ達セサル壯丁(第一ノ三參照)ハ適齡マテノ期間内ノ自己ノ不在カ何等法律上ノ障害ヲ來サ、ルコトヲ證明シタル編入地(第一ノ十二)兵員補充委員會ノ文官タル委員長ノ認證ヲ提出スル場合ニ於テノミ公認ヲ受クルコトヲ得

二、兵役義務年齢(第一ノ三參照)ニ達シ若ハ之ヲ超過シタル壯丁ハ許可セラレタル猶豫期間内ニ於テノミ公認ヲ受クルコトヲ得

三、除籍證書、免役證書、補充豫備票、海軍補充豫備票若ハ國民就役票ヲ所持シ若ハ除隊證書ニ依リ現役トシテノ服役義務ヲ完了シ若ハ凡テノ兵役關係ヲ離脱シタルコトヲ證明シ得ル者ノ雇入公認ハ軍事上何等ノ障害ナシ

四、豫備兵、海軍豫備兵、國防兵、海防兵、補充豫備兵及海軍補充豫備兵ノ各兵籍ニ在ル者ハ海員局ニ於ケル雇入公認ノ際監督所(主宰届出官廳、届出官廳若ハ區曹長)ニ届出ルコトヲ要セス  
前項ノ各員ハ雇止公認カ内地ニ於テ行ハレタルトキハ遅クトモ十四日以内、動員ノ場合ニ在テハ四十八時間以内ニ受領セル雇止公認ノ認證ヲ提示シテ管轄監督所ニ之ヲ届出ツルコトヲ要ス、雇止公認ヲ受ケタル地ニ管轄監督所ナク他ノ主宰届出官廳、届出官廳若ハ他ノ區曹長アルトキハ該届出ノ義務者ハ自ら



出頭ノ上下船ノ届出ヲ爲スコトヲ得

雇止公認後直ニ同一船舶ニ對スル雇入契約更新ノ公認ヲ受ケタルトキハ歸著ノ届出ヲ爲スコトヲ要セ  
ス

一時郷里ニ歸休ヲ許サレタル新兵及志願兵竝爾後ノ兵役關係ニ關スル決定アル迄兵員補充官廳ノ所屬豫  
備員ニ編入セラレタル者ハ雇入公認及雇止公認ノ後監督所ニ之ヲ雇出ルコトヲ要ス

五、陸軍々隊若ハ海軍部隊ノ所屬豫備員ニ編入セラレタルモノハ管轄地方司令官ノ特別ノ許可ナクシテ雇  
入公認ヲ受クルコトヲ得ス從テ公認前許可ヲ受クルコトヲ要ス

監督所ニ對スル乗船若ハ歸著ノ届出ニ關シテハ第四號末項ニ掲ケタル規定ヲ適用ス

六、凡テ届出ノ場合ニハ軍隊票、補充豫備員票又ハ海軍補充豫備員ノ票、歸休兵ノ票若ハ採用證書ヲ提示ス  
ルコトヲ要ス

前項ノ書類存在セザルトキト雖猶届出ヲ爲スコトヲ要ス、船員若ハ航海ヨリ歸來セル歸休兵カ雇止公認  
ノ際更ニ雇入公認ヲ受クルノ希望ヲ有スルトキハ書面ニ依ル歸還ノ届出(第七號)ノ際雇止公認ノ認證ヲ  
附加スルヲ以テ足ル

七、第四號ニ掲ケタル届出ハ書面ニヨリ之ヲ爲スヘシ但郵稅ヲ要セス、該書面ニハ表面ニ軍用事務(Military

File)ト書シ且信書ハ開封若ハ地方警察官廳封印ノ下ニ之ヲ發送スルコトヲ要ス但市内郵便ニ付テハ郵稅  
ヲ免除セス

國防兵及海防兵ノ第二徵集兵員ノ歸還届出(第四號第二項)ハ雇止公認ノ認證ヲ提出スルトキハ平時ニ於  
テハ家族ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得

八、一般動員ノ際ニハ總テノ兵役義務者竝海上若ハ外國ニ在ル陸軍及海軍ノ歸休兵ハ直ニ内地ニ歸來シ最  
寄監督所ニ届出ルコトヲ要ス

宣戰ノ詔勅ニ依リ戰爭開始ノ場合ニ於テ國民軍召集セラレタルトキハ海上若ハ外國ヨリ直ニ歸來スヘキ  
義務ハ總テ兵籍ニアル者之ヲ有ス

戰爭開始ノ場合ニハ總テ前掲ノ兵員ハ最寄獨逸領事館ニ就キ當該動員ノ種類ニ關スル告知及自己ノ取ル  
ヘキ行動ニ關スル助言ヲ求ムルコトヲ要ス

領事ハ雇入契約消滅ノ場合及當事者カ歸航ノ機會若ハ金錢ヲ有セサル場合ニ諸般ノ助力ヲ與フ、之ニ關  
スル申請ヲ爲ス場合ニハ船員手帖及兵役ニ關スル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

正當ナル時期ニ歸來スルコトヲ妨ケラレタル者ハ領事ノ認證其ノ他ノ信憑スヘキ認證ニ依リ之ヲ證明ス  
ルコトヲ要ス之ニ違反シタル場合ニハ法ノ嚴正ナル處罰ヲ豫期スルコトヲ要ス



# 大航海ノ食物表

週 量	週 量				一日ノ量				週 量		
	水	茶	珈 琲	橄 欖 油	豚 脂	牛 酪	魚 類	豚 肉		又ハ 豚 肉	又ハ 豚 肉
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	12ヲ見ヨ
六リットル但乗組員十名以上ナルトキハ其ノ他定量外ノ水ヲ支給ス	三〇瓦	一五〇瓦又ハ二五五瓦(生珈琲) 二〇〇瓦又ハ一八〇瓦(燒珈琲) 12ヲ見ヨ	〇、五リットル	五〇〇瓦	五〇〇瓦	三七五瓦 單ニ一週ニ日	二五〇瓦 (人員十名以上ナルトキハ其ノ他定量外ノ獸肉若ハ魚肉ヲ給ス)	三七五瓦	五〇〇瓦 (又ハ三七五瓦ノ罐詰ノ肉但シ鹽積ノ牛肉ノ代ニ鹽肉ヲ六週間一般ニ食シタル後一週二回與フルコトヲ要ス)		

註ヲ見ヨ



一
般
12
<p>其ノ他各人ハ每週二五〇瓦ノ野菜(馬鈴薯「キヤベツ」、其ノ他ノ野菜)又一五〇瓦ノ乾燥セル果物、堅キ小麥麩若ハ黑麩及穀粉ノ合計四二五〇瓦、二五〇瓦ノ砂糖若ハ舍利別及〇、二五「リットル」ノ酢ヲ給ス</p> <p>次ニ船員ニ對シ(船籍港ヨリ出發スル場合)一人宛五〇「リットル」ノ麥酒ヲ携ヘ麥酒ナキニ至リタルトキハ一五〇若ハ一二〇瓦ノ珈琲ノ代リニ一週二二五若ハ一八〇瓦ノ珈琲ヲ受ク</p> <p>乾燥セル豌豆、隱元豆、碾割(ヒキワリ)麥若ハ麥粒ハ充分ニ之ヲ與フ</p> <p>港ニ於テハ一週二度少クモ新鮮ナル食物ヲ與フ(新鮮ナル獸肉及魚肉ノミナラス新鮮ナル野菜及麩ヨリ成ルコト)</p> <p>發航後三週間以後ハ一人毎日二十瓦ノ「レモン」液ヲ與フ(之ヲ飲用スルニハ二十瓦ノ砂糖ヲ混シ且「ラム」酒アルトキハ其ノ小量及約<math>\frac{4}{10}</math>「リットル」ノ水ヲ加フヘシ)</p>

註、牛酪若ハ人造牛酪ハ少クモ六ヶ月分ヲ用意スルコトヲ要ス

半酪ノ代リトシテノ豚脂及橄欖油ナキトキハ一人一日二五〇瓦ノ獸肉若ハ一二五瓦豚肉ヲ餘分ニ與フヘシ

船長ハ良好ナル食料及成ルヘク新鮮ナル飲料水竝航海ノ情況ニ應シ兩者ノ永續的貯藏ニ留意スルノ義務ヲ有ス



# 海上船舶ノ食糧及船員常用室ニ關スル命令 (一八七三年三月十五日)

獨逸船員法第四十五條ニ適合セシメ元老院ハ商業會議所協議ノ上且商人會議所ノ承諾ヲ得タル後「ブレ」  
メン」船舶登記簿ニ登記シタル船舶ニ對シ船舶乗組員ノ食糧ハ船員常用室ノ大サ、構造及航海ニ携フ可キ  
藥劑ニ關シ下ノ命令ヲ發布ス(一九〇二年海員法第五十六條)

第一條 船員一人ニ對スル割合規則上左ノ如シ

(イ) 獸肉ハ一日

五〇瓦ノ牛肉(一ポンド)若ハ三七五瓦( $\frac{3}{4}$ 斤)ノ鹽漬豚肉若ハ二五瓦( $\frac{1}{2}$ 斤)燻豚肉(豕肉)

若ハ鹽漬又ハ乾燥若ハ新鮮ナル魚肉ヲ充分、而テ其ノ中原則トシテ與フ可キ度數

牛肉ハ一週四度

豚肉(豕肉)ハ一週二度

魚肉一週一度若ハ代用ノ牛肉若ハ豚肉ヲ前掲ノ標準ニ依リ與フ

(ロ) 麩麵ハ五〇〇瓦迄(一斤) 一日

(ハ) 牛酪ハ五〇〇瓦(一斤) 一週間、六ヶ月以上繼續スル航海ニ際シ外國ニ於テ牛酪ヲ容易ニ得ルコ



ト能ハサル場合ニハ豚脂若ハ橄欖油ヲ代用スルコトヲ得而テ其ノ場合ニハ五〇〇瓦ノ牛酪ニ對シ五〇〇瓦(一斤)豚脂若ハ半 Bouteille 即三一二瓦( $\frac{5}{8}$ 斤)ノ橄欖油トス、此ノ兩者ヲモ得ル能ハサルトキハ其ノ代リニ船員ハ一日イニ規定セル標準ニ從ヒ獸肉若ハ豕肉ノ半量ヲ受ク

(ニ) 水ハ一日六リットル(迄)(14ガロン)

(ホ) 野菜、乾燥セル豌豆、馬鈴薯、隱元豆、碾割麥、麥粒、穀粉若ハ類似ノ食料ヲ充分

(ヘ) 珈琲一五六瓦( $\frac{5}{16}$ 斤)但一週間

(ト) 茶三一瓦( $\frac{1}{16}$ 斤)但一週間

(チ) 酢、鹽、普通ノ香料、舍利別

總テ此等ノ事項ニ付急迫ノ場合ニ相當ノ方法ニ於テ割合ヲ引下ケ若ハ他ノ適當ナル物ヲ以テ之ニ代フルコトハ之ヲ船長ノ權能ニ留保ス

新鮮ナル獸肉ヲ容易ニ得ラルヘキ港ニ於テハ鹽漬肉若ハ燻肉ノ代リニ少クモ一週間一回之ヲ乗組員ニ與フ

第二條 船員常用室ノ廣サハ一人ニ付少クモ一、七立方米突アルコトヲ要ス

二重寢室(二人寢臺)ハ常用室内ニ存置スルコトヲ得ス

第三條 藥劑及醫療器械ハ各航海ニ付少クモ附加目錄ニ掲ケタル分量ヲ攜帶スヘキモノトス

一八七三年三月十二日元老會議決議同年三月十五日公布(ニブレトメン)



## 商船内ノ衛生ニ關スル命令 (一八八九年三月十七日)

元老院ハ船員法(一八七二年十二月二十七日)第四十五條及第百八條ニ關連シ商人會議所ノ承諾ヲ得商業會議所ト協議ノ上「ブレイメン」船舶登記簿ニ登記セラレタル商船ニ對シ次ノ命令ヲ發布ス

註、一九〇二年ノ船員法ニ依レハ第六條第百三十三條

- 第一、商船内ニ於テハ總テノ航海ニ於テ商船内ノ衛生指針ノ標本少クモ一部ヲ存置スルコトヲ要ス、之ハ内務尙書ノ勸誘ニ依リ帝國衛生局之ヲ編纂シ「ユリユース、スプリングル」ノ出版ニ係ルモノトス
- 第二、商船ノ指揮者ハ其ノ船舶内ニ於ケル衛生及病者看護ニ關シ成ルヘク第一號ニ掲クル指針ノ標準ニ從ヒ處理スル様留意スルコトヲ要ス
- 第三、小航海ノ場所ノ範圍ヲ超ユル(一八八七年八月六日ノ布告第二條、帝國法律公報第三九五頁)商船ノ航海ニ付テハ第一號ニ掲クル指針中ノ附録一ニ掲ケタル病傷者用藥劑、繃帶其ノ他ノ救護材料ヲ携フルコトヲ要ス
- 第四、大航海ニ於ケル商船内ニ於テハ船舶食糧ハ本命令ノ附録ニ掲ケタル食物表ヲ標準トシ且「レモン」液ノ携帶及附與ニ關シテハ指針ノ第二十二條ノ標準(本命令ノ第一)ニ從ヒ處理スルコトヲ要ス



本規則ハ歐洲、地中海、黑海及「アツフ」海ノ港ニ寄港スルニ止ル航海、又歐洲ノ港ト北緯三十五度以北ニ在ル大西洋ノ港及島嶼トノ間ノ航海ニ於ケル船舶ニハ之ヲ適用セス

第五、本命令ノ規定ニ違反スル行爲ハ刑法ノ規定及船員法第九十七條（一九〇二年ノ船員法第一百十二條）ノ規定ヲ留保シ百五十馬克以下ノ罰金ニ處ス

第六、本命令ハ一八八九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス、本命令中第三及第四ノ規定ノ適用ヲ受ケサル商船ニ對シテハ海船乗組員ノ食糧及居室ニ關スル一八七三年三月十五日ノ命令中給養及藥劑函ニ關スル第一條及第三條ノ規定ヲ適用ス

三月十五日元老院會議決議

（一八八九年）

三月十七日 公布

6710  
14



大正十四年三月二十六日印刷  
大正十四年三月二十八日發行

發行者 遞信省管船局

印刷者 中外印刷株式會社



中代明鳳村友會印

西曆一九二六年六月二十六日

大正十四年三月二十八日發行  
大正十四年三月二十六日印刷





